



第26回 市政世論調査

市民のこえ

調査結果のまとめ



©稲沢市 いなッピー

2022 稲沢市

はじめに

今回、昭和 48 年の第 1 回調査から数えて 26 回目の「市政世論調査」を実施させていただきました。

この調査は、市のさまざまな施策について、市民の皆さまからご意見をお聞きし、その結果を今後の市政運営に反映させ、魅力と活力のあるまちづくりを進めるため実施しております。

近年は、新型コロナウイルスの数回にわたる感染拡大と、それに伴い発出された緊急事態宣言やまん延防止等重点措置により、市民の皆さまの生活に多大な影響を及ぼすこととなりました。大きく変わる社会経済環境の中、本市におきましては、ワクワクいなざわ応援券の発行のほか、商工会議所・商工会と連携し、創業者の支援、農業者を含む事業者の新規事業展開などの相談窓口として、創業経営支援センター「スタートアップいなざわ」を開設するなど、ウィズコロナ・アフターコロナ社会を見据えた地域経済の活性化に向けて取り組んでおります。

また、ICT 技術やデータを活用した市民サービスや業務効率の向上に向け、申請書等の作成サポート「書かない窓口」の設置や、キャッシュレス決済の拡充、電子図書館の開設など、非接触対応を可能にするデジタル化を進めております。

本調査におきましても、今回よりインターネット回答を導入し、回答に係る負担を軽減するとともに、より多くのご意見を集約できたものと考えております。

長引くコロナ禍により先の見通しが非常に困難な状況ではありますが、社会情勢の変化に柔軟に対応し、市民の皆さまとともに、持続可能で新たな魅力ある稲沢市を目指してまいります。今後とも稲沢市の発展のため、市政に一層のご理解とご協力をいただきますようお願いいたします。

最後に、ご多用の中、本調査にあたりご協力いただきました多くの市民の皆さまに厚くお礼を申し上げます。

令和 4 年 11 月

稲 沢 市

目 次

はじめに.....	1
目 次.....	2
I 調査概要	4
1 調査の目的	4
2 調査の概要	4
3 回収結果	4
4 調査結果の見方	4
5 過去の調査概要	5
II 調査結果	7
1 回答者の属性について	7
2 稲沢市について	10
問1 稲沢市を住みやすいところだと感じますか。	10
問1-1 住みにくい理由は何ですか。	12
問2 これからも稲沢市に住みたいと思いますか。	14
問3 稲沢市の現状についてどの程度満足していますか。	16
問4 あなたは、次の各項目についてどれにあてはまりますか。	18
3 市業務のデジタル化の推進について	29
問5 パソコンやスマートフォン、タブレットなど、インターネットに接続する電子機器を持 っていますか。	29
問6 現在、稲沢市ではデジタル化に向けた取り組みを行っていますが、デジタル化は進んで いると感じますか。	30
問7 スマートフォンの一般的な操作方法をはじめ、マイナンバーカードを活用した各種オン ライン申請、マイナポータルの活用方法などの説明が聞ける「スマホ教室」に参加した いと思いますか。	31
問7-1 その理由は何ですか。	32
4 今後の市民活動の支援のあり方について	33
問8 市民活動団体の活動やボランティア団体の活動に関心がありますか。	33
問8-1 あなたが関心のある市民活動・ボランティア活動の分野をお答えください。	34
問8-2 あなたが市民活動・ボランティア活動に参加する際に重視する点をお答えください。 ..	35
5 第4次稲沢市地域福祉計画・地域福祉活動計画における現状	36
問9 地域の活動やボランティア活動に参加したことがありますか。	36
問10 台風などの災害時に避難する際、家族、近所の人など手助けをお願いできる人がいますか。 ..	36
問11 稲沢市の福祉事業・活動全般について、どの程度満足していますか。	37

6	将来の学校配置について	38
問 12	本市の小中学校の標準規模について、あなたの考えに近いものを選んでください。	38
問 13	本市の小学校の配置について、あなたの考えに近いものを選んでください。	39
問 13-1	選択した理由として、あなたの考えに近いものを選んでください。	40
問 13-2	選択した理由として、あなたの考えに近いものを選んでください。	41
問 13-3	一般的に、小学校では、どの程度小規模になったら、学校再編が必要であると考え ますか。あなたの考えに近いものを選んでください。	42
7	創業意識について	43
問 14	ご自身で事業を営む創業について、どう考えていますか。	43
問 14-1	あったら良い（良かった）と考える支援策はありますか。	44
8	「合葬墓・樹木葬」の市民ニーズについて	46
問 15	現在、お墓または納骨堂をお持ちですか。または取得予定ですか。	46
問 15-1	将来、墓じまいをお考えになったことはありますか。	47
問 16	「合葬墓」や「樹木葬」と呼ばれているお墓をご存じですか。	48
問 17	市営墓地である祖父江霊園内に合葬墓や樹木葬を設置した場合、利用したいですか。 ..	48
9	荻須記念美術館への来館状況について	49
問 18	これまでに、学校の授業等ではなく、プライベートで荻須記念美術館を訪れ、荻須高德 画伯の絵画を鑑賞したことがありますか。	49
問 18-1	その理由として、最も近いものは何ですか。	50
10	安全でおいしい水のPR効果について	52
問 19	飲料水として、最も利用する水は何ですか。	52
問 19-1	その理由は何かですか。	53
11	住宅用火災警報器について	54
問 20	お住まいの住宅は、次のうちどちらに該当しますか。	54
問 21	お住まいの住宅は、次のうちどちらに該当しますか。	54
問 21-1	住宅用火災警報器の作動確認を半年以内に実施しましたか。	55
問 21-2	作動確認を実施した結果についてを選んでください。	55
問 21-3	住宅用火災警報器を設置する義務があることは知っていましたか。	56
問 21-4	設置していない理由は何ですか。	56
12	いきいきいなざわ・健康 21(第2次)計画（H26～R6）における現状	57
問 22	次の病気のうち、たばこが影響すると知っているものはありますか。	57
問 23	あなたは心身ともに健康であると思いますか。	58
問 24	日常生活において（仕事や家事などを含む）、1日にどの程度歩いていますか。	59
問 25	1日3回の食事をどの程度摂れていますか。	60

Ⅲ 第25回市政世論調査 調査結果活用事例

61

I 調査概要

1 調査の目的

市民生活の実態や、市民志向の調査、市政や生活環境などの調査を行い、データなどの集約・分析によって、現状把握の中から行政施策の立案・実態把握の基礎資料とします。

2 調査の概要

- (1) 調査地域 : 稲沢市全域
- (2) 調査対象者 : 満 18 歳以上の市民の方 2,500 人（無作為抽出）
- (3) 調査期間 : 令和 4 年 7 月 30 日から 8 月 15 日まで
- (4) 調査方法 : 郵送法（インターネット回答併用）

3 回収結果

調査人数	回答人数	回収率
2,500 人	1,518 人 (うち、インターネット回答 322 人)	60.7%

4 調査結果の見方

- 図表中の「N数 (number of case)」は集計対象者総数（あるいは回答者限定設問の限定条件に該当する人）を示しています。
- グラフ中の「%」は、小数第 2 位を四捨五入しているため、単数回答の設問（1 つだけに○をつけるもの）であっても合計が 100%にならない場合があります。また、複数回答の設問の場合（あてはまるもの全てに○をつけるものなど）は「N」に対する各選択肢の回答者数の割合を示していますので、合計が 100%を超える場合があります。
- 図表中において、「無回答」とあるものは、回答が示されていない、または回答の判別が著しく困難なものです。
- 設問に対する回答数が「あてはまるもの全てに○」の場合、各 N 数と調査結果の割合から割戻した数の合計が一致しない場合があります。
- グラフ中の選択肢は、原則として調査票に記載された表現のまま記載しています。
- 調査結果を図表で表示していますが、グラフ以外の集計表（クロス集計）は、最も高い割合のものを網かけしています。（「無回答」を除く）

※クロス集計とは…複数項目の組み合わせで分類した集計のことで、複数の質問項目を交差して並べ表を作成することにより、その相互の関係を明らかにするための集計方法

5 過去の調査概要

区分	調査年月日	調査人数	回答人数	回収率	調査方法
第1回	昭和48年7月	1,000人	805人	80.5%	個別面接法
第2回	昭和49年9月	2,000人	1,418人	70.9%	郵送法
第3回	昭和50年9月	2,000人	1,461人	73.1%	郵送法
第4回	昭和52年6月	2,000人	1,402人	70.1%	郵送法
第5回	昭和54年7月	2,000人	1,579人	79.0%	郵送法
第6回	昭和56年7月	2,500人	1,929人	77.2%	郵送法
第7回	昭和58年7月	2,500人	1,893人	75.7%	郵送法
第8回	昭和60年7月	2,500人	1,936人	77.4%	郵送法
第9回	昭和62年6月	2,500人	1,878人	75.1%	郵送法
第10回	平成元年6月	2,500人	1,768人	70.7%	郵送法
第11回	平成4年6月	2,500人	1,775人	71.0%	郵送法
第12回	平成6年7月	2,500人	1,801人	72.0%	郵送法
第13回	平成8年7月	2,500人	1,685人	67.4%	郵送法
第14回	平成10年7月	2,500人	1,767人	70.7%	郵送法
第15回	平成12年7月	2,500人	1,699人	68.0%	郵送法
第16回	平成14年7月	2,500人	1,660人	66.4%	郵送法
第17回	平成16年7月	2,500人	1,598人	63.9%	郵送法
第18回	平成18年7月	2,500人	1,625人	65.0%	郵送法
第19回	平成20年8月	2,500人	1,598人	63.9%	郵送法
第20回	平成22年8月	2,500人	1,637人	65.5%	郵送法
第21回	平成24年8月	2,500人	1,624人	65.0%	郵送法
第22回	平成26年11月	2,500人	1,699人	68.0%	郵送法
第23回	平成28年8月	2,500人	1,390人	55.6%	郵送法
第24回	平成30年8月	2,500人	1,352人	54.1%	郵送法
第25回	令和2年8月	2,500人	1,425人	57.0%	郵送法

■ 稲沢市の位置図



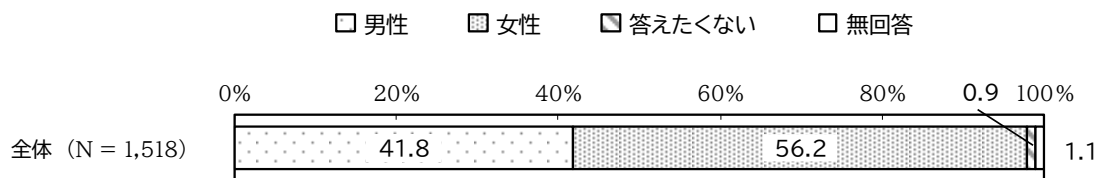
■ 支所・市民センター地区図



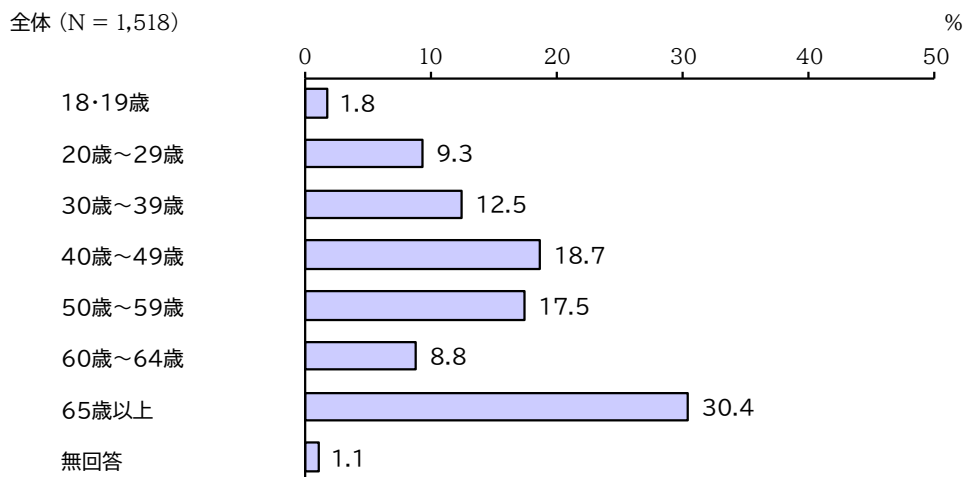
II 調査結果

1 回答者の属性について

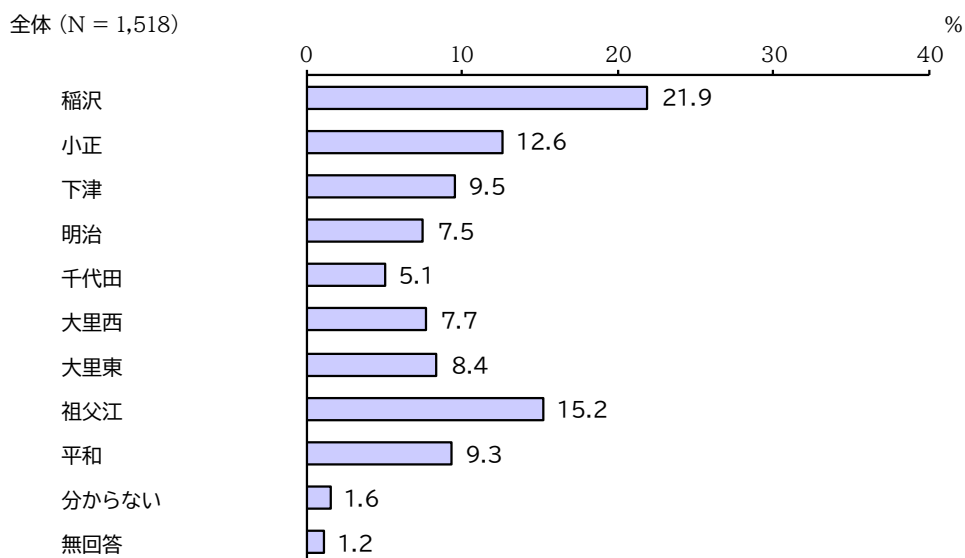
性別をお答え下さい。(○は1つだけ)



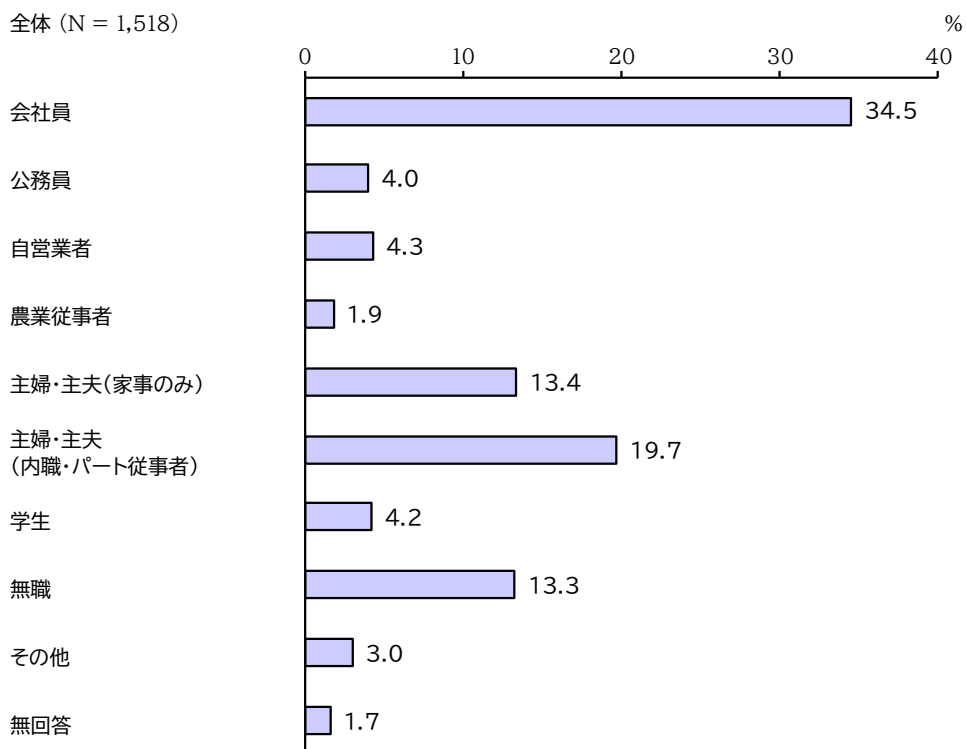
満年齢は何歳代ですか。(○は1つだけ)



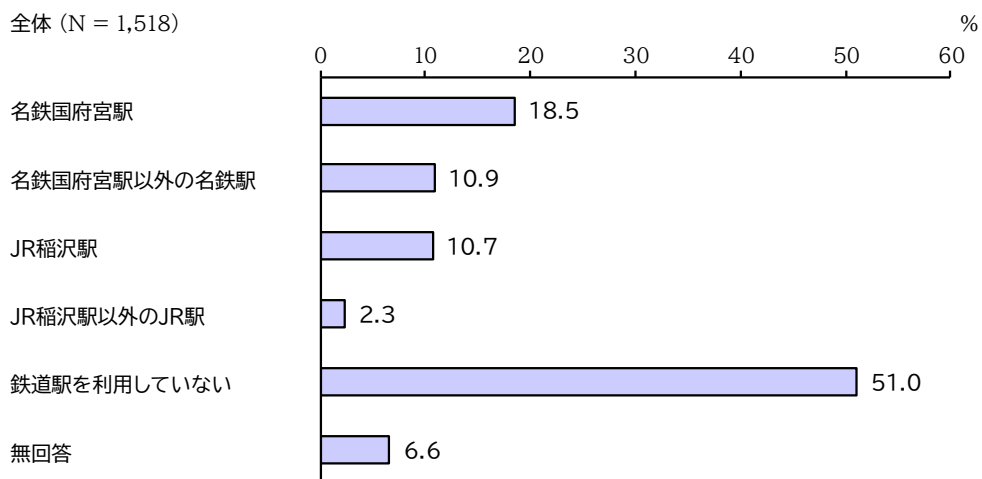
お住まいの支所・市民センター地区はどちらですか。(○は1つだけ)



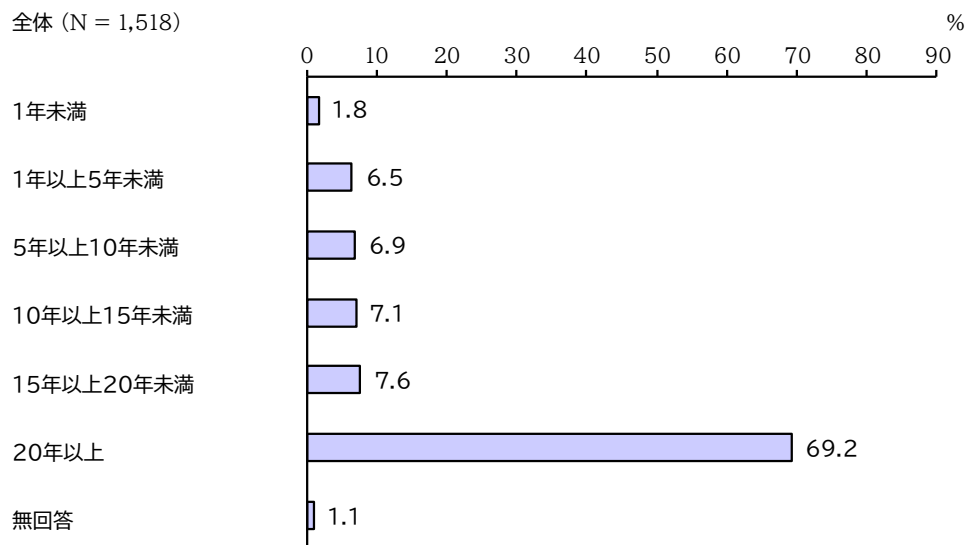
ご職業をお答えください。(〇は1つだけ)



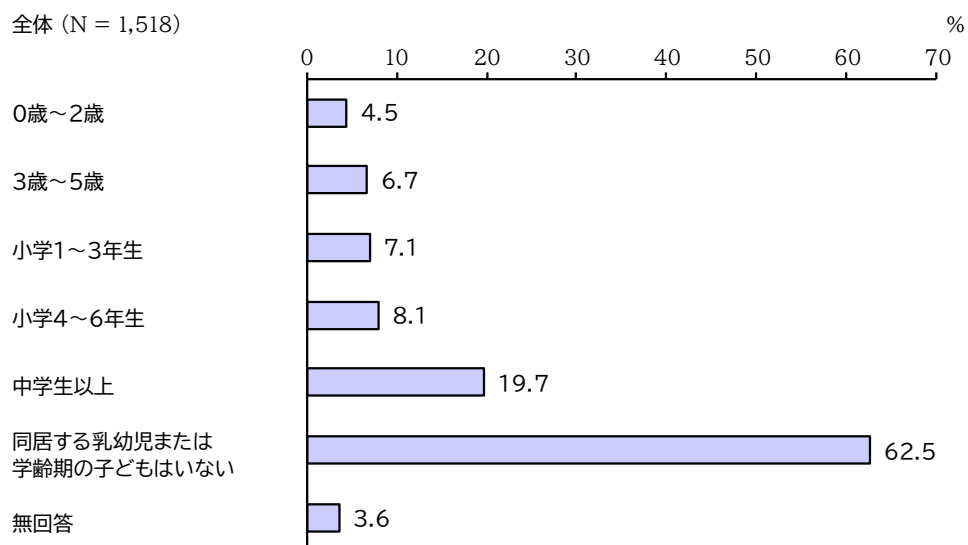
日ごろ通勤・通学などで利用している鉄道駅を選んでください。(〇は1つだけ)



稲沢市の居住年数をお答えください。(○は1つだけ)

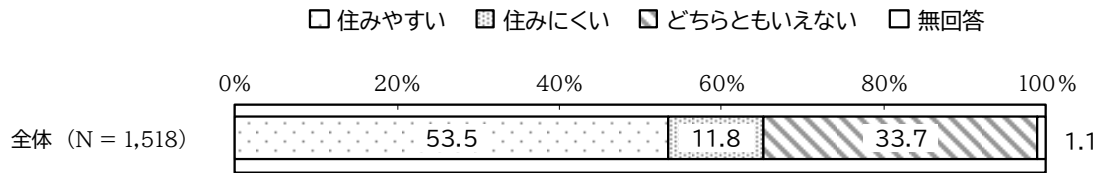


同居する乳幼児または学齢期（高校・大学生を含む）の子どもはいますか。
(あてはまるもの全てに○)

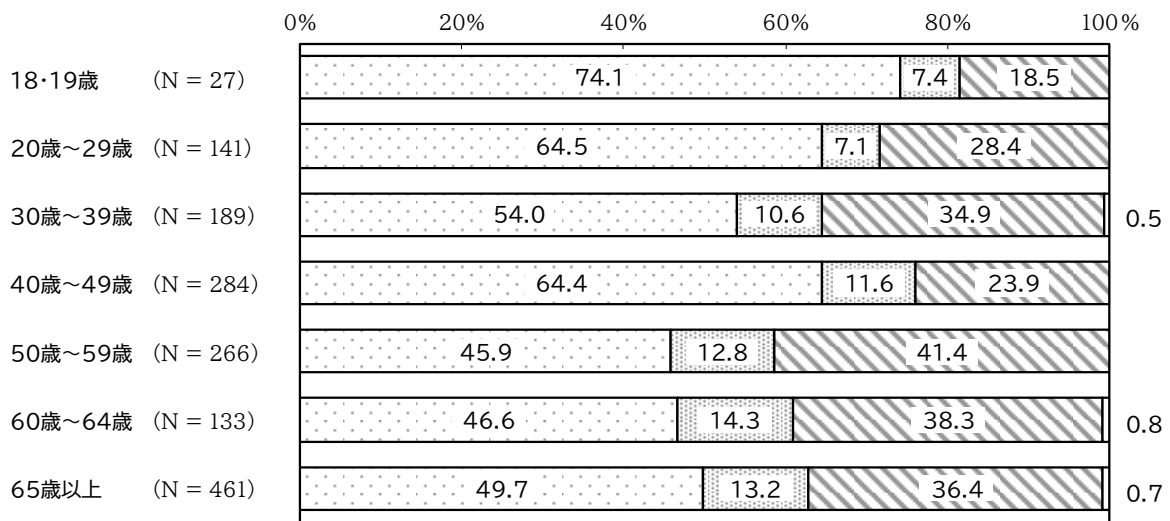


2 稲沢市について

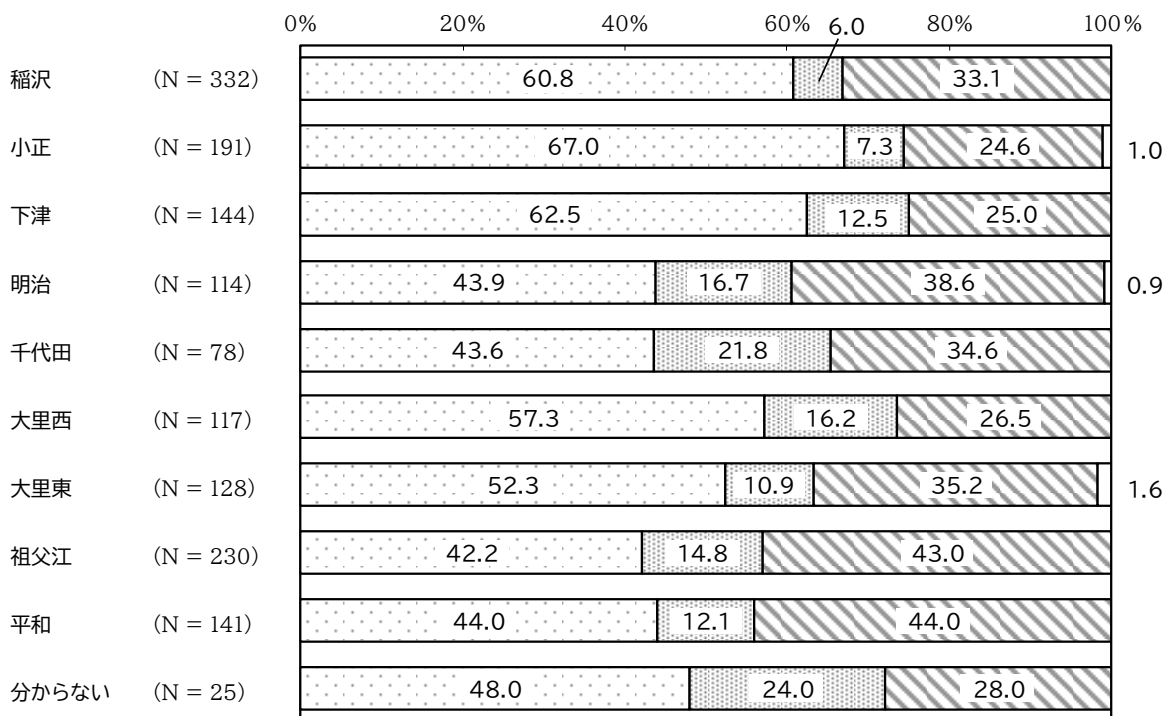
問1 稲沢市を住みやすいところだと感じますか。(〇は1つだけ)



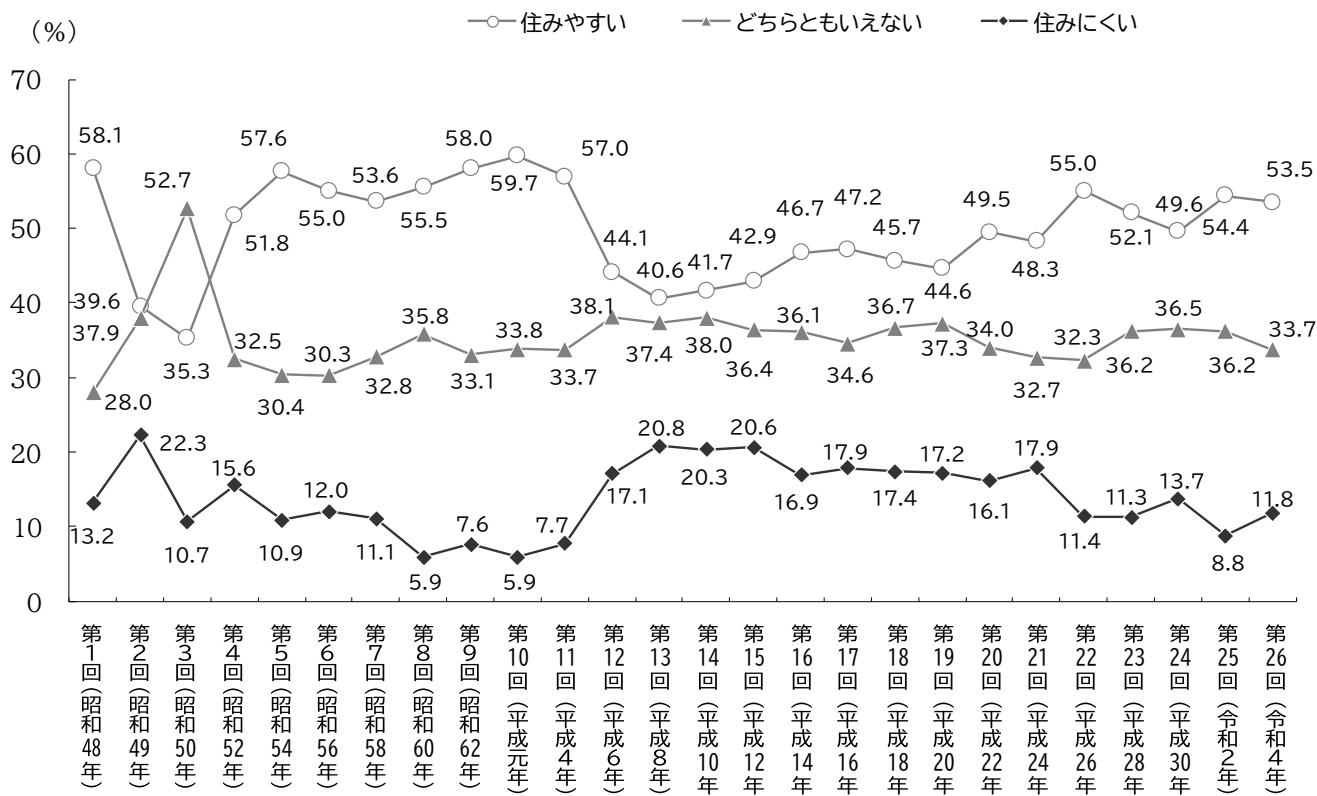
【年齢別】



【居住地区別】



【過去調査との比較】



● 「住みやすい」と感じている方は5割超え

稲沢市を住みやすいところだと感じているかについては、「住みやすい」の割合が、全体で53.5%と最も高く、次いで「どちらともいえない」の割合が33.7%、「住みにくい」の割合が11.8%となっています。

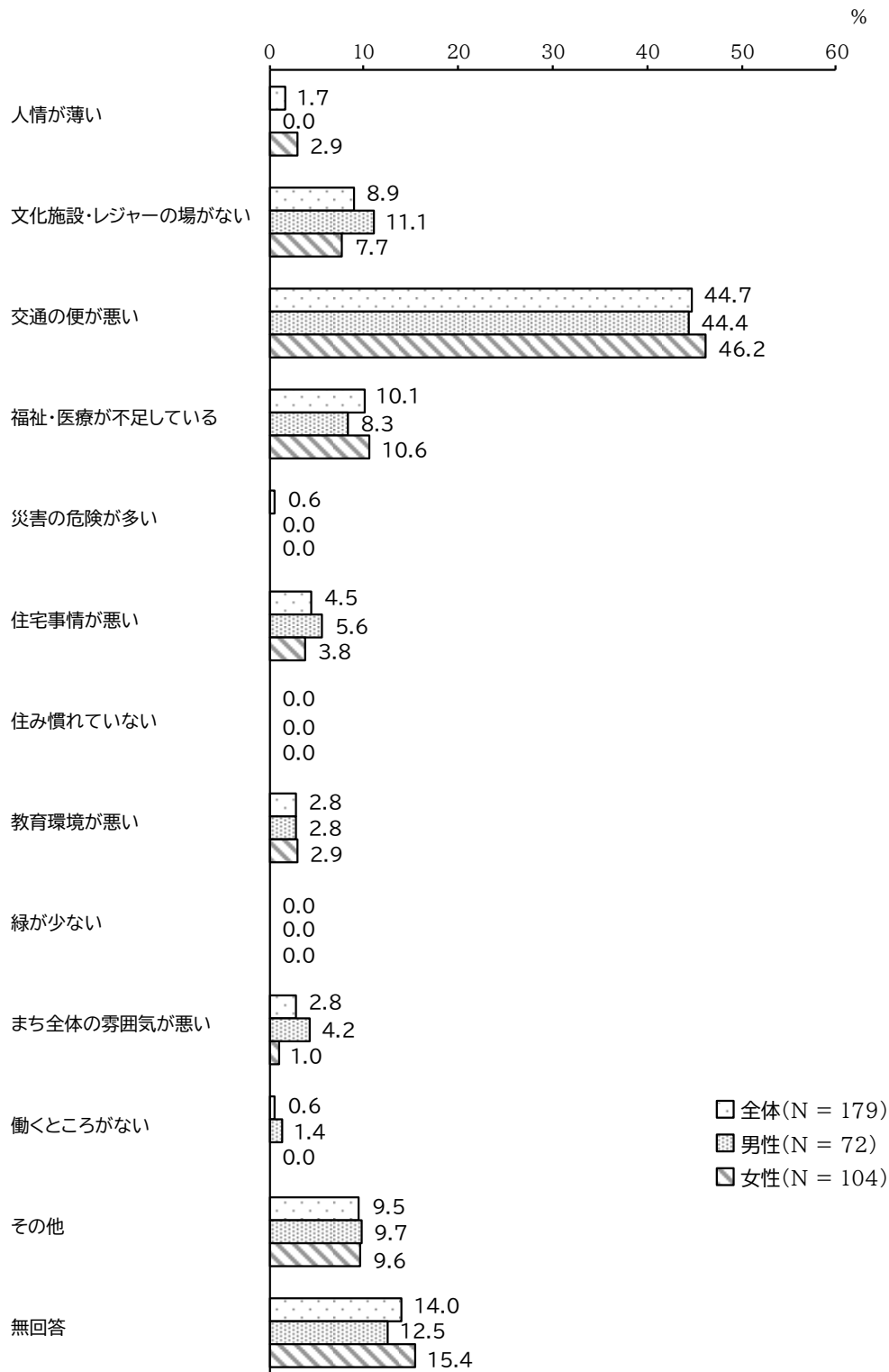
年齢別でみると、「住みやすい」の割合が18・19歳で74.1%、20～29歳で64.5%、40～49歳で64.4%と、他に比べ若い世代等で高くなっています。

居住地区別にみると、稲沢、小正、下津地区で「住みやすい」と感じている方の割合が6割を超え高くなっているのに対し、千代田地区では「住みにくい」と感じている方の割合が21.8%と他の居住地区と比べて高くなっています。

問1で「2. 住みにくい」と答えた方にお聞きします。

問1-1 住みにくい理由は何ですか。(〇は1つだけ)

【性別】



【居住地区別】

単位：％

区分	有効回答数(件)	人情が薄い	文化施設・レジャーの場がない	交通の便が悪い	福祉・医療が不足している	災害の危険が多い	住宅事情が悪い	住み慣れていない	教育環境が悪い	緑が少ない	まち全体の雰囲気が悪い	働くところがない	その他	無回答
稲沢	20	5.0	10.0	15.0	10.0	-	10.0	-	5.0	-	5.0	5.0	10.0	25.0
小正	14	-	-	21.4	14.3	-	14.3	-	7.1	-	-	-	21.4	21.4
下津	18	-	5.6	44.4	5.6	-	5.6	-	-	-	5.6	-	16.7	16.7
明治	19	-	10.5	68.4	5.3	-	-	-	-	-	-	-	5.3	10.5
千代田	17	-	5.9	82.4	5.9	-	-	-	-	-	-	-	5.9	-
大里西	19	5.3	10.5	36.8	10.5	-	5.3	-	5.3	-	-	-	21.1	5.3
大里東	14	-	7.1	42.9	14.3	-	7.1	-	-	-	7.1	-	7.1	14.3
祖父江	34	2.9	11.8	41.2	11.8	2.9	2.9	-	2.9	-	2.9	-	2.9	17.6
平和	17	-	11.8	58.8	11.8	-	-	-	5.9	-	5.9	-	-	5.9
分からない	6	-	-	33.3	16.7	-	-	-	-	-	-	-	16.7	33.3

●住みにくい理由は「交通の便が悪い」が4割半ば

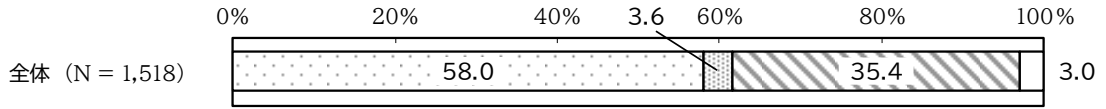
住みにくい理由は、全体で「交通の便が悪い」の割合が44.7%と最も高く、男女ともに高い割合を示しています。次いで「福祉・医療が不足している」の割合が10.1%となっています。

また、性別でみると、男性で「文化施設・レジャーの場がない」の割合が11.1%と高くなっています。

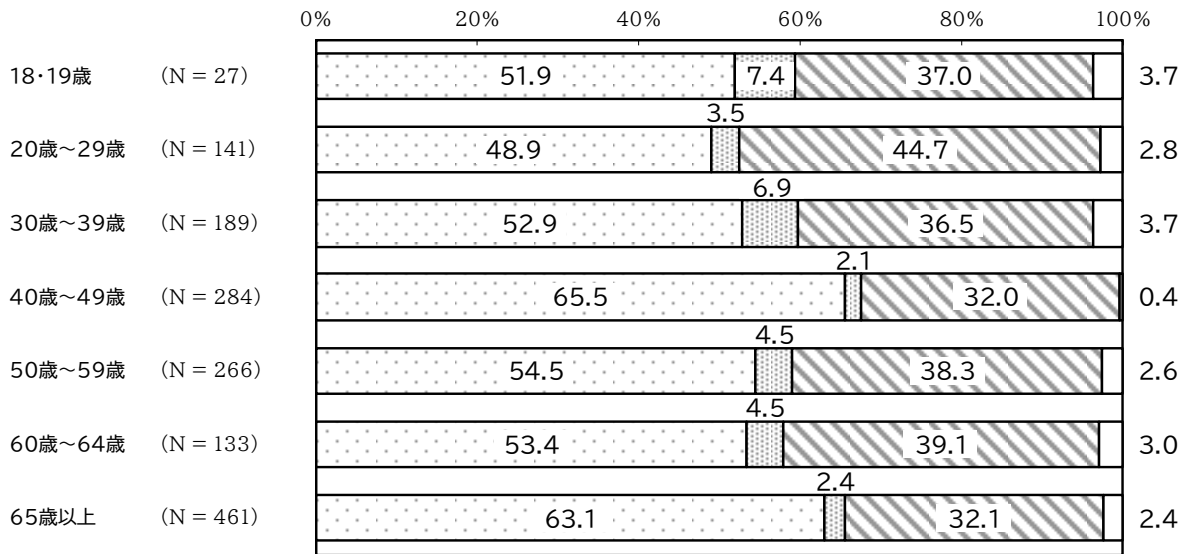
居住地区別でみると、全地区を通して「交通の便が悪い」の割合が最も高く、特に明治、千代田、平和地区で高い割合を示しています。

問2 これからも稲沢市に住みたいと思いますか。(○は1つだけ)

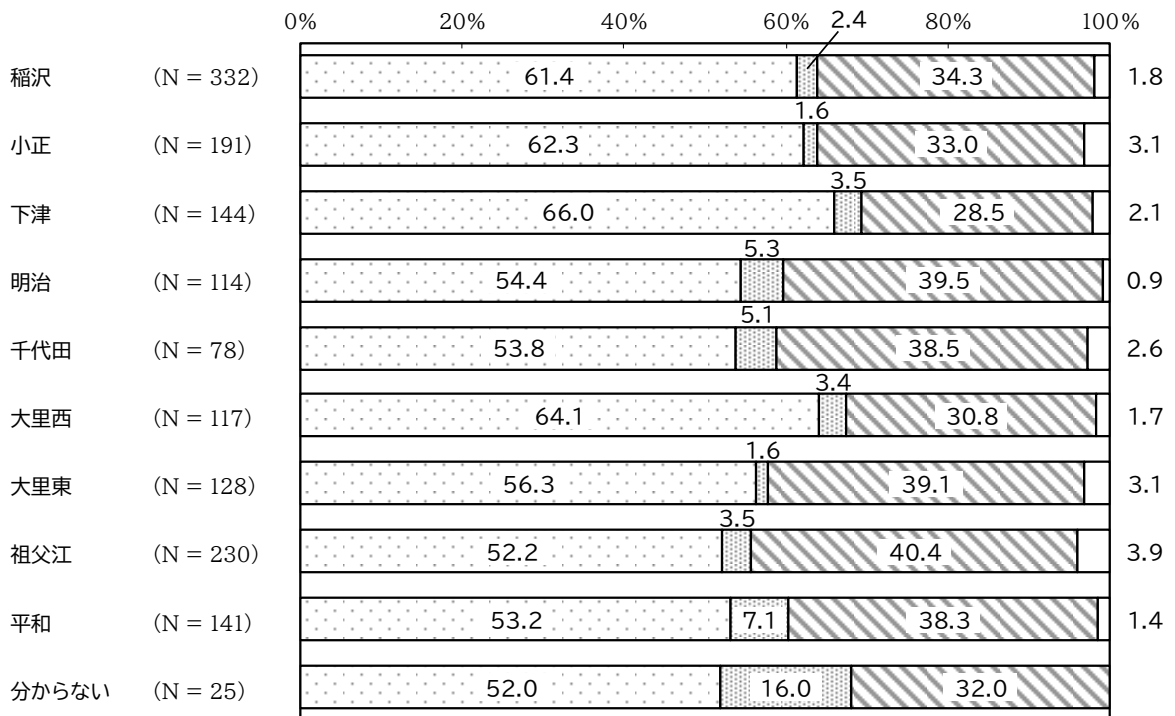
□ 住みたい □ 住みたくない □ どちらともいえない □ 無回答



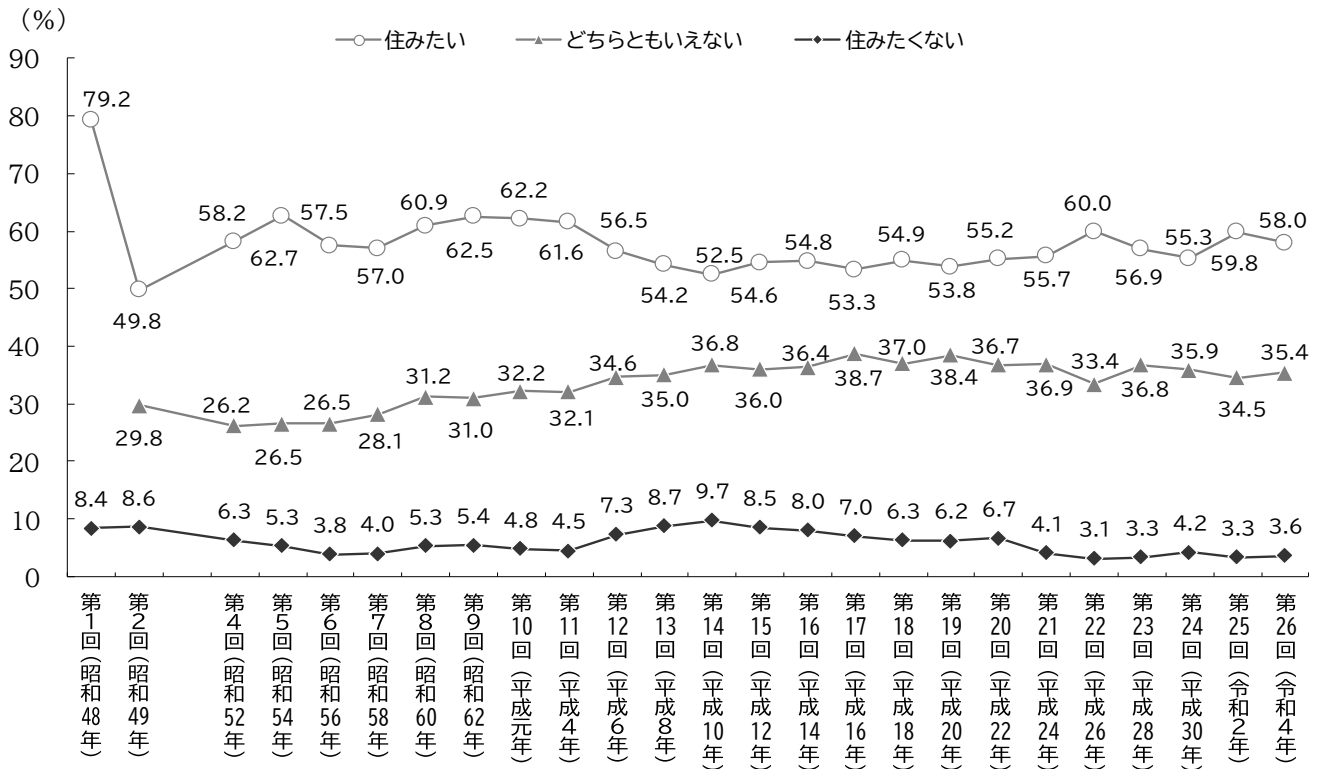
【年齢別】



【居住地区別】



【過去調査との比較】



※第3回（昭和50年）については、本設問の調査は実施していません

●これからも稲沢市に住みたいと思う方が約6割

これからも稲沢市に「住みたい」と思う方の割合は、全体では58.0%と最も高く、次いで「どちらともいえない」の割合が35.4%となっています。

年齢別でみると、40歳～49歳、65歳以上で「住みたい」の割合が6割を超え高くなっています。

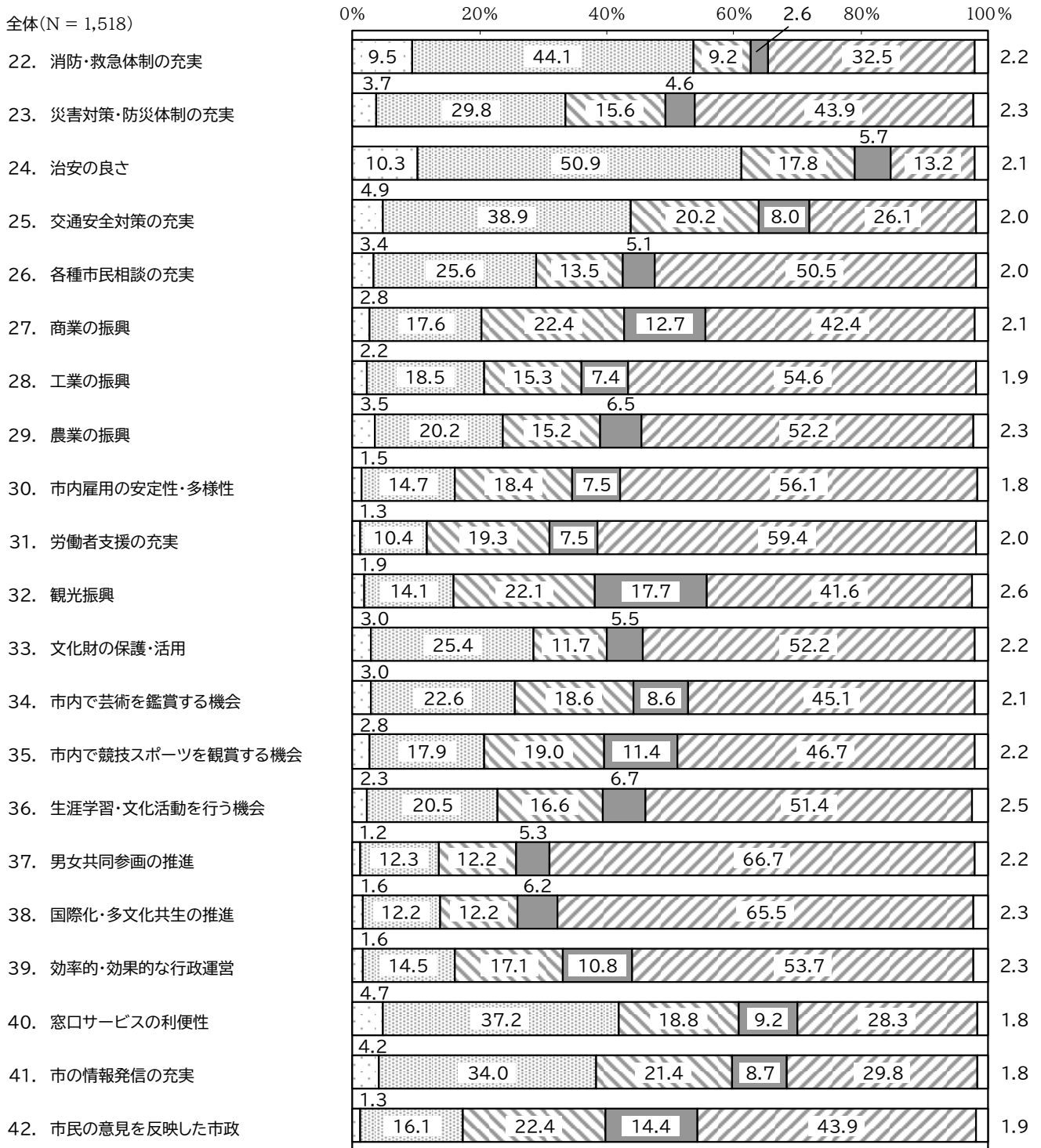
居住地区別でみると、稲沢、小正、下津、大里西地区で「住みたい」の割合が6割を超え高くなっています。

問3 稲沢市の現状についてどの程度満足していますか。
(それぞれについて○は1つだけ)

□ 満足 □ どちらかといえば満足 □ どちらかといえば不満
■ 不満 □ わからない □ 無回答



満足 どちらかといえば満足 どちらかといえば不満
 不満 わからない 無回答

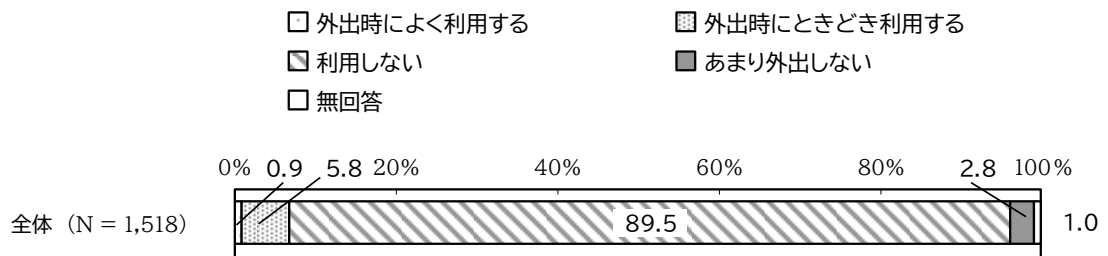


●「水道水の安定供給」について8割半ばが“満足”

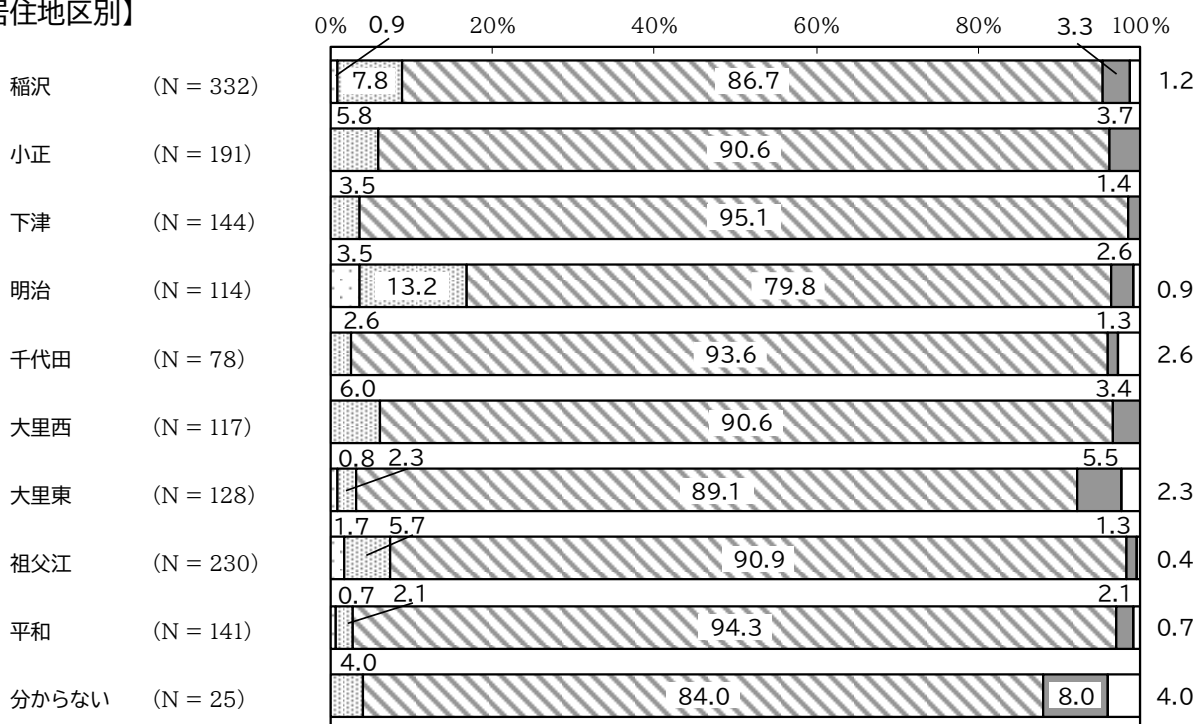
現状について、「10. 水道水の安定供給」「11. 生活排水の安定処理」「24. 治安の良さ」などは6割以上の市民が“満足”と感じています。一方、「1. 名鉄国府宮駅周辺の活気や魅力」「2. JR 稲沢駅周辺の活気や魅力」「4. 道路の整備・利便性」「8. 河川のきれいさ」などは“不満”と感じている市民が多くなっています。

問4 あなたは、次の各項目についてどれにあてはまりますか。
(それぞれについて○は1つだけ)

1. あなたは日常の交通手段としてコミュニティバスを利用していますか



【居住地区別】



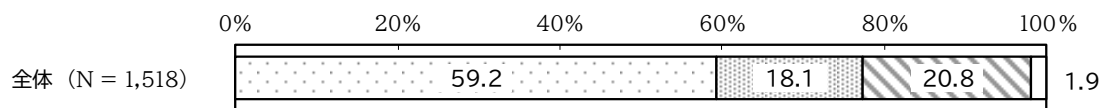
●日常の交通手段としてコミュニティバスを利用しない方が約9割

「利用しない」の割合が89.5%と最も高くなっています。

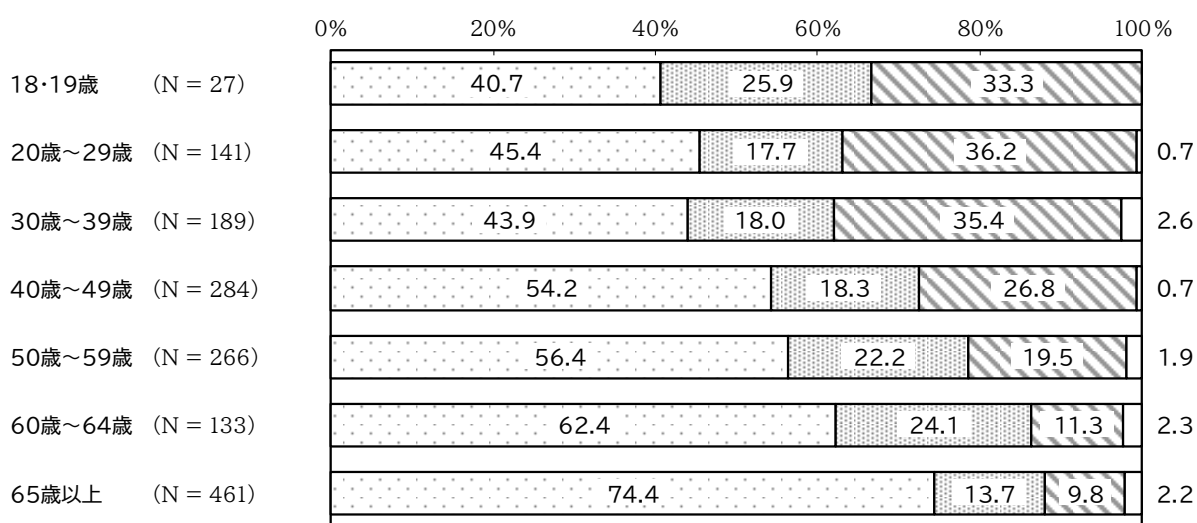
一方、居住地区別でみると、他の地区と比べ、明治地区では「外出時によく利用する」「外出時にときどき利用する」を合わせた“利用する”の割合が16.7%と高くなっています。

2. あなたの家庭では自宅などの緑化を行っていますか。

- 緑化を行っている
- 緑化したいが、できない(家族の同意が得られない、場所がないなど)
- 行おうと思わない
- 無回答



【年齢別】



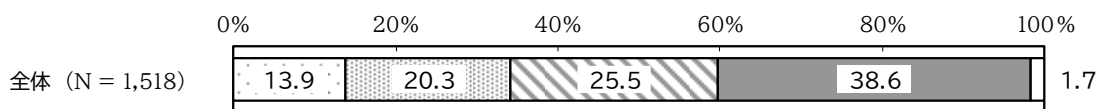
●自宅などの緑化を行っている方は約6割

「緑化を行っている」の割合が59.2%と最も高く、次いで「行おうと思わない」の割合が20.8%、「緑化したいが、できない(家族の同意が得られない、場所がないなど)」の割合が18.1%となっています。

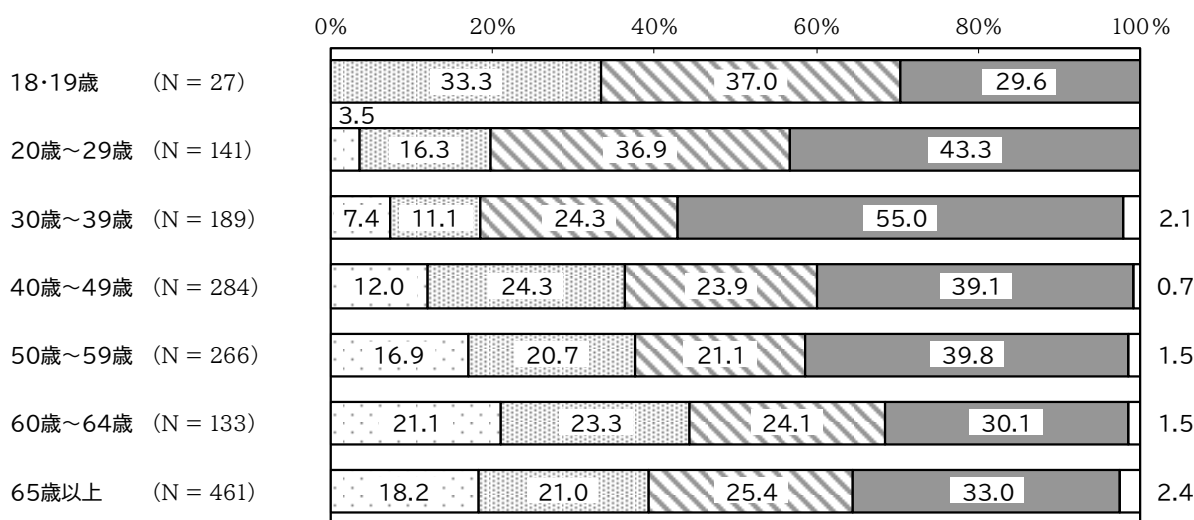
年齢別で見ると、年齢が上がるにつれ「緑化を行っている」の割合が高くなる傾向がみられます。

3. あなたは環境美化活動に参加していますか。

- 日ごろから参加している ■ 以前、参加したことがある
- ▨ 誘われれば活動に参加したい ■ あまり参加したくない
- 無回答



【年齢別】



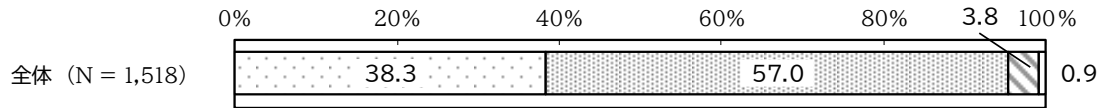
●環境美化活動への参加に“関心がある”方が6割

「日ごろから参加している」「以前、参加したことがある」を合わせた割合が34.2%、「誘われれば活動に参加したい」が25.5%と、環境美化活動への参加に“関心がある”方の割合が約6割となっています。

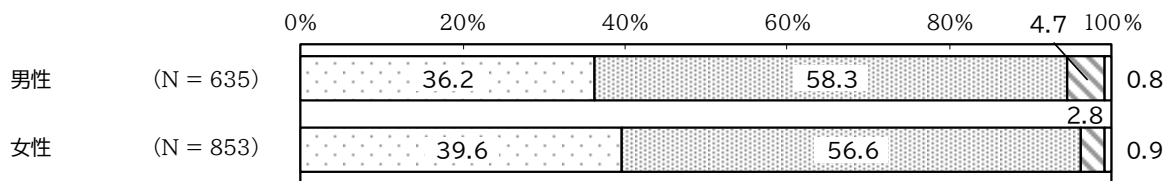
年齢別でみると、30～39歳で「あまり参加したくない」の割合が高くなっていますが、その他の全ての年代で「日ごろから参加している」「以前、参加したことがある」「誘われれば活動に参加したい」を合わせた割合が5割以上となりました。

4. あなたはごみの減量を行っていますか。

- ごみの減量を行っている
- 気にかけているが、できないことが多い
- 行おうと思わない
- 無回答



【性別】



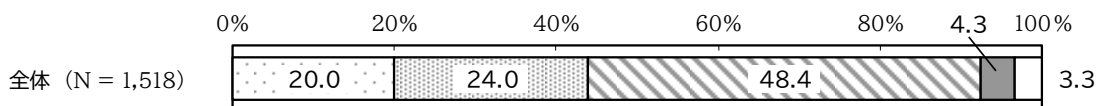
●ごみの減量を「気にかけているが、できないことが多い」方が6割近く

「気にかけているが、できないことが多い」の割合が57.0%と最も高く、次いで「ごみの減量を行っている」の割合が38.3%となっています。

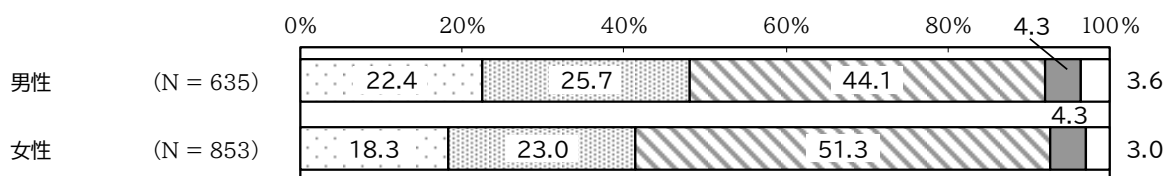
性別でみると、大きな差異はみられません。

5. あなたは日ごろから健康維持・増進活動を行っていますか。

- 日常的に健康づくり活動を行っている
- ときどき健康づくり活動を行っている
- 気にかけているが、できないことが多い
- 行おうと思わない
- 無回答



【性別】



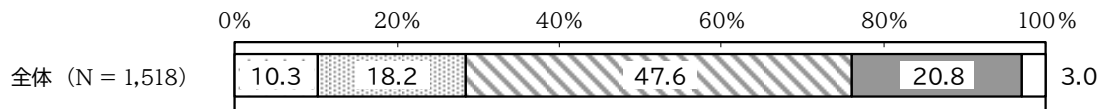
●日ごろから健康維持・増進活動に「気にかけているが、できないことが多い」方が5割近く

「気にかけているが、できないことが多い」の割合が48.4%と最も高く、次いで「ときどき健康づくり活動を行っている」の割合が24.0%、「日常的に健康づくり活動を行っている」の割合が20.0%となっています。

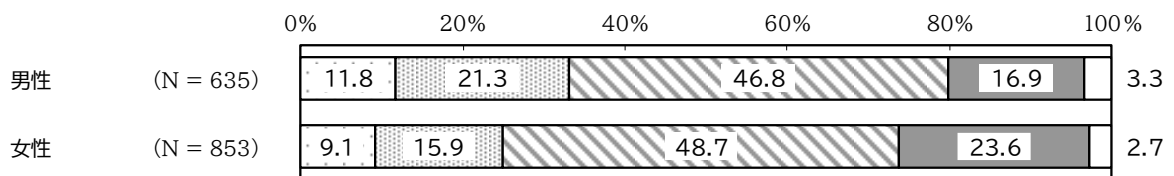
性別で見ると、「日常的に健康づくり活動を行っている」「ときどき健康づくり活動を行っている」を合わせた割合が、女性に比べ男性で高くなっています。

6. あなたは日ごろからスポーツに親しんでいますか。

- 日常的にスポーツをしている
- ときどきスポーツをしている
- スポーツをしたいが、できないことが多い
- スポーツをしようと思わない
- 無回答



【性別】

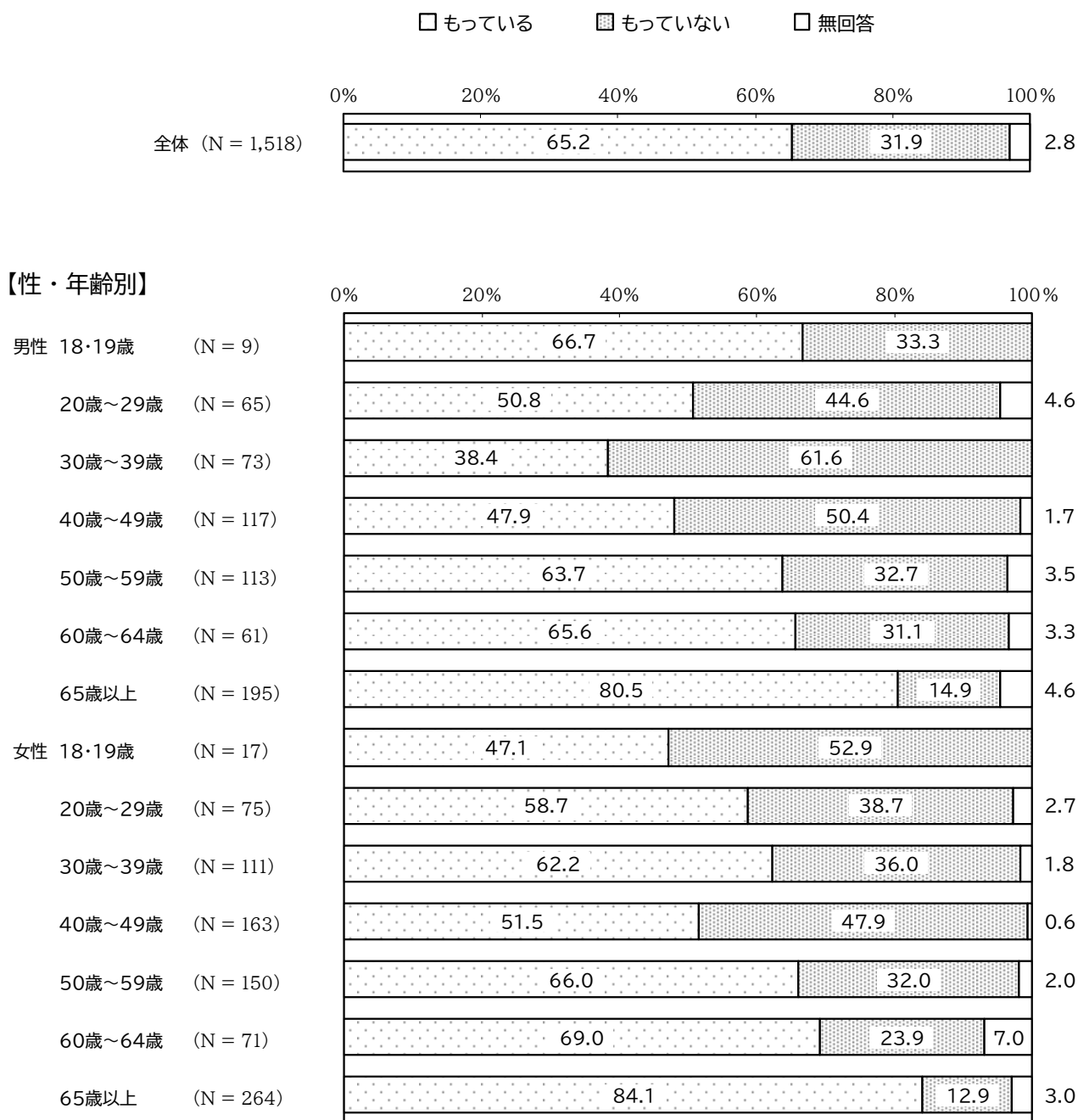


●日ごろから「スポーツをしたいが、できないことが多い」方が5割近く

「スポーツをしたいが、できないことが多い」の割合が47.6%と最も高く、次いで「スポーツをしようと思わない」の割合が20.8%、「ときどきスポーツをしている」の割合が18.2%となっています。

性別で見ると、女性に比べ、男性で「ときどきスポーツをしている」の割合が高くなっています。一方、男性に比べ、女性で「スポーツをしようと思わない」の割合が高くなっています。

7. あなたはかかりつけ医をもっていますか。

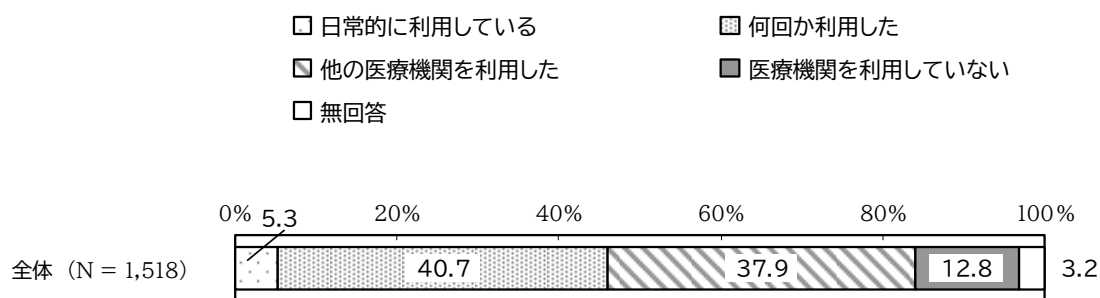


●かかりつけ医を「もっている」方が6割半ば

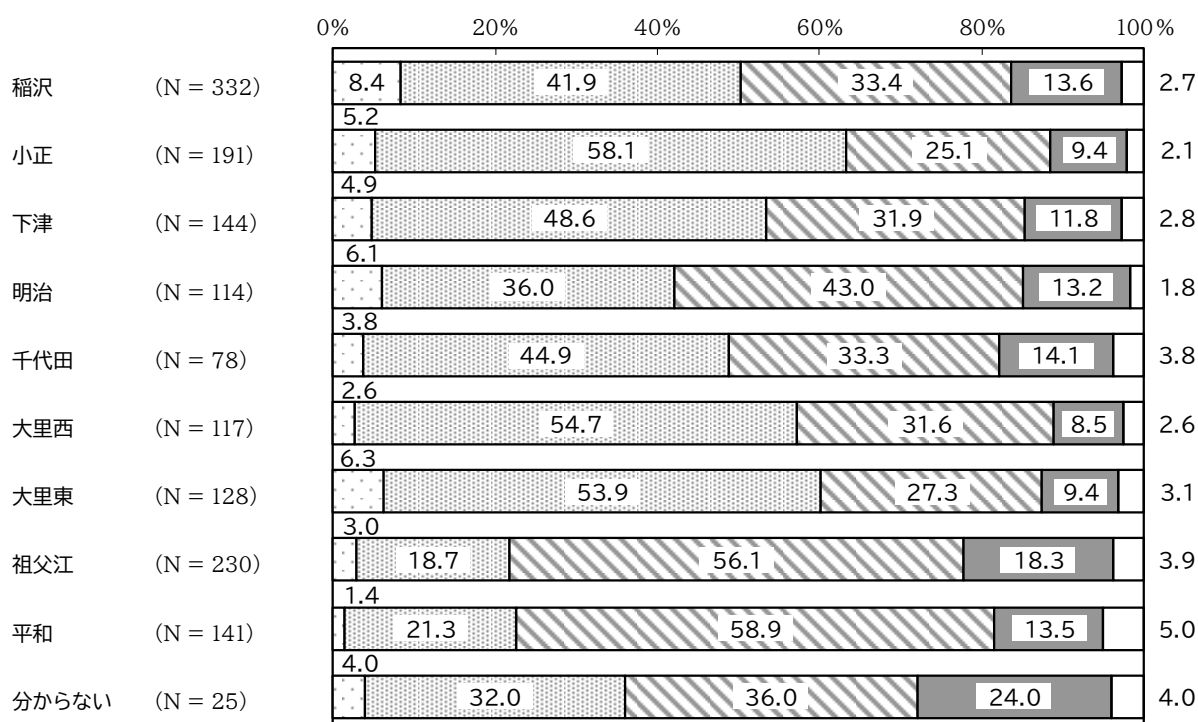
「もっている」の割合が65.2%、「もっていない」の割合が31.9%となっています。

性・年齢別で見ると、男性30～39歳、40～49歳、女性18・19歳を除く全ての年代で「もっている」の割合が高くなっています。

8. あなたは市民病院が開院（平成 26 年）してから利用しましたか。



【居住地区別】



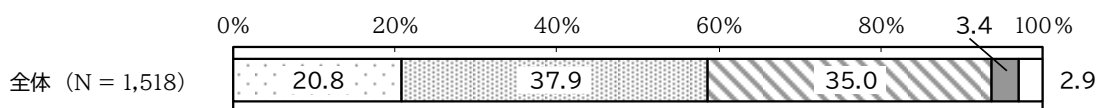
●平成 26 年以降、市民病院を「何回か利用した」方が約 4 割

「何回か利用した」の割合が 40.7%と最も高く、次いで「他の医療機関を利用した」の割合が 37.9%となっています。

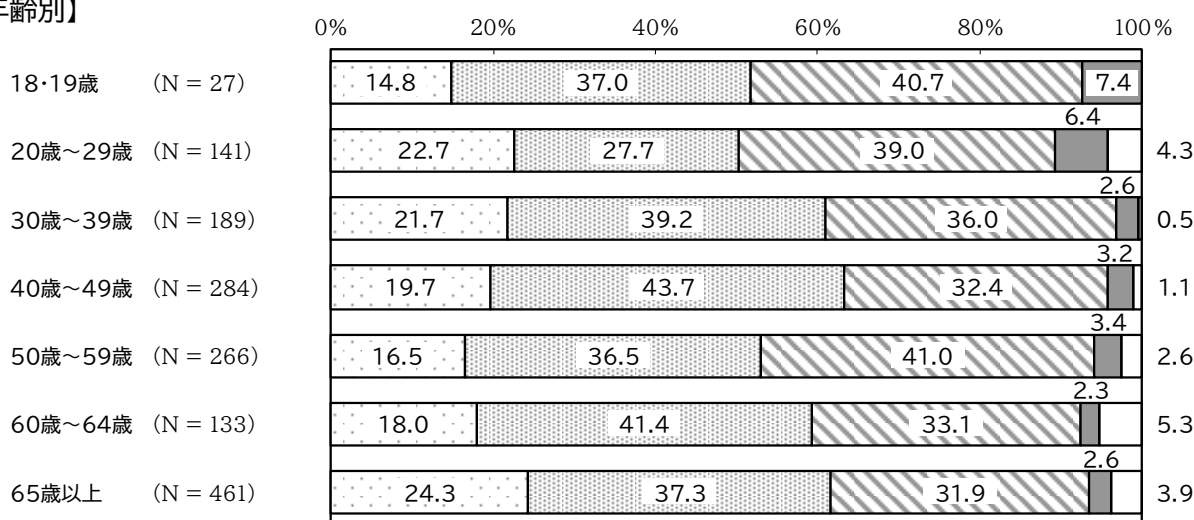
居住地区別でみると、祖父江、平和地区では「他の医療機関を利用した」の割合が高くなっていますが、その他の地区では「日常的に利用している」「何回か利用した」を合わせた“利用している”方の割合が高くなっており、4割以上の方が市民病院を利用したことがあると回答しました。

9. あなたのご家庭では災害時の飲料水や食糧を備蓄していますか。

- 3日分程度の備蓄をしている
- ▨ 3日分はないが、備蓄している
- ▩ 備蓄しようと思っているが、できていない
- 備蓄しようと思わない
- 無回答



【年齢別】

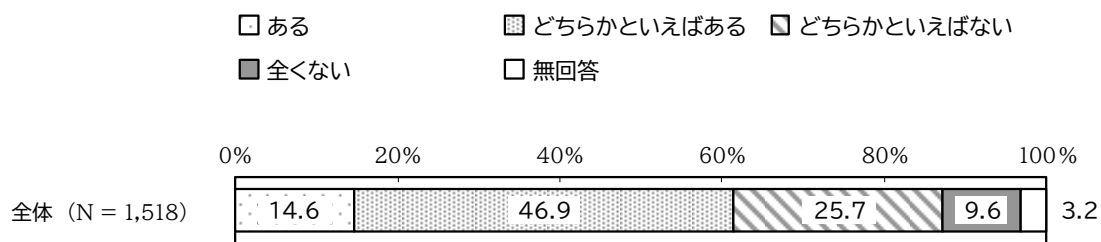


●家庭で災害時の飲料水や食糧を“備蓄している”方が6割近く

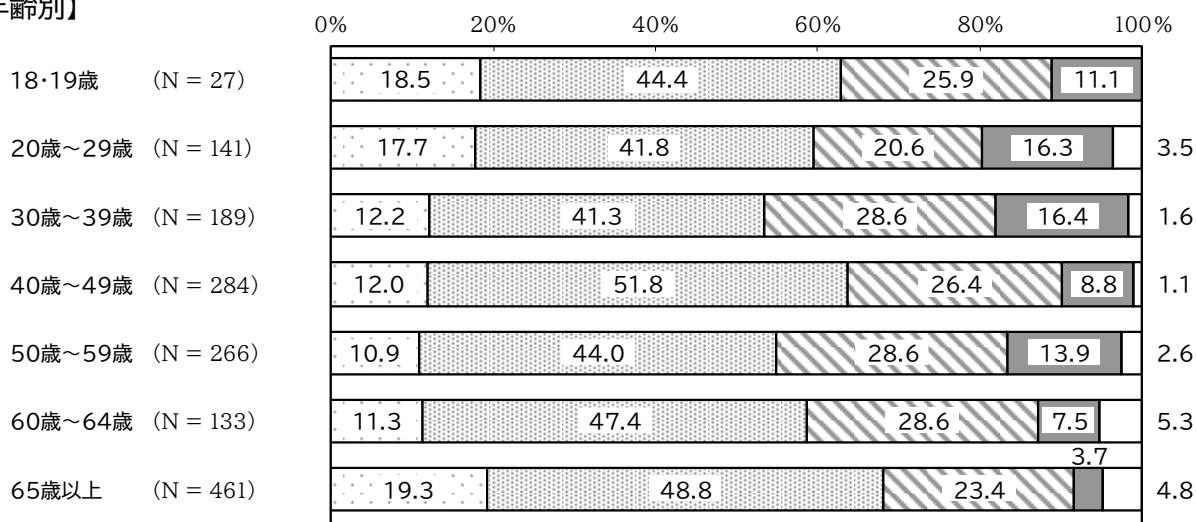
「3日分はないが、備蓄している」の割合が37.9%と最も高く、次いで「備蓄しようと思っているが、できていない」の割合が35.0%、「3日分程度の備蓄をしている」の割合が20.8%となっています。

年齢別で見ると、全ての年代で“備蓄している”の割合が5割を超え、災害時の備蓄への意識が高い結果となっています。

10. あなたは稲沢市に対する誇りや愛着がありますか。



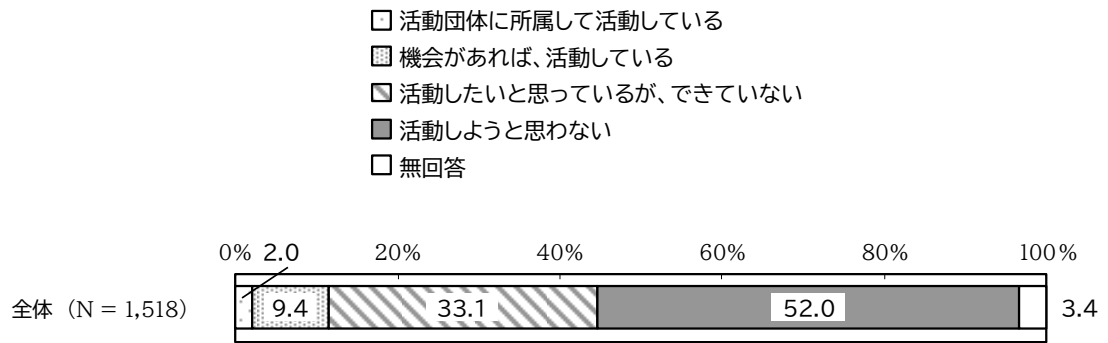
【年齢別】



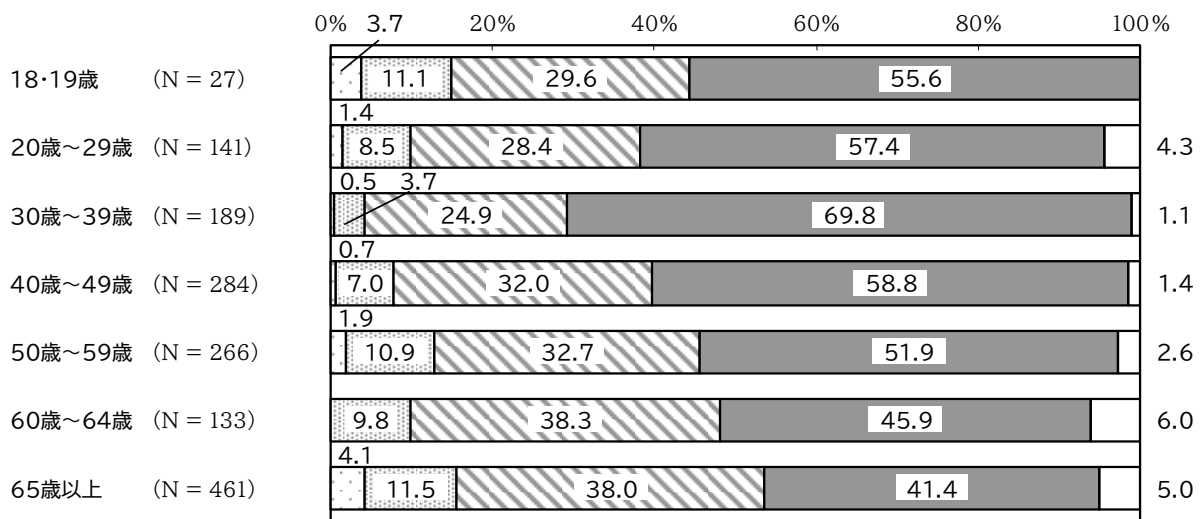
●稲沢市に対する誇りや愛着が“ある”方が6割超え

「ある」と「どちらかといえばある」を合わせた“ある”の割合が61.5%、となっています。年齢別でみると、18・19歳、20～29歳、65歳以上で「ある」の割合が高くなっています。

11. あなたは行政と市民（企業やNPO含む）の協働によるまちづくり活動をしていますか。



【年齢別】



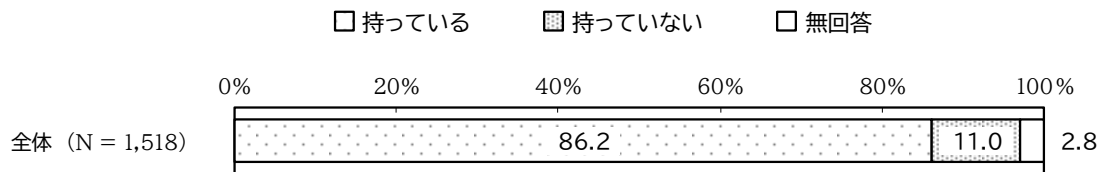
●まちづくり活動を「活動しようと思わない」方が5割超え

「活動しようと思わない」の割合が52.0%と最も高く、次いで「活動したいと思っているが、できていない」の割合が33.1%となっています。

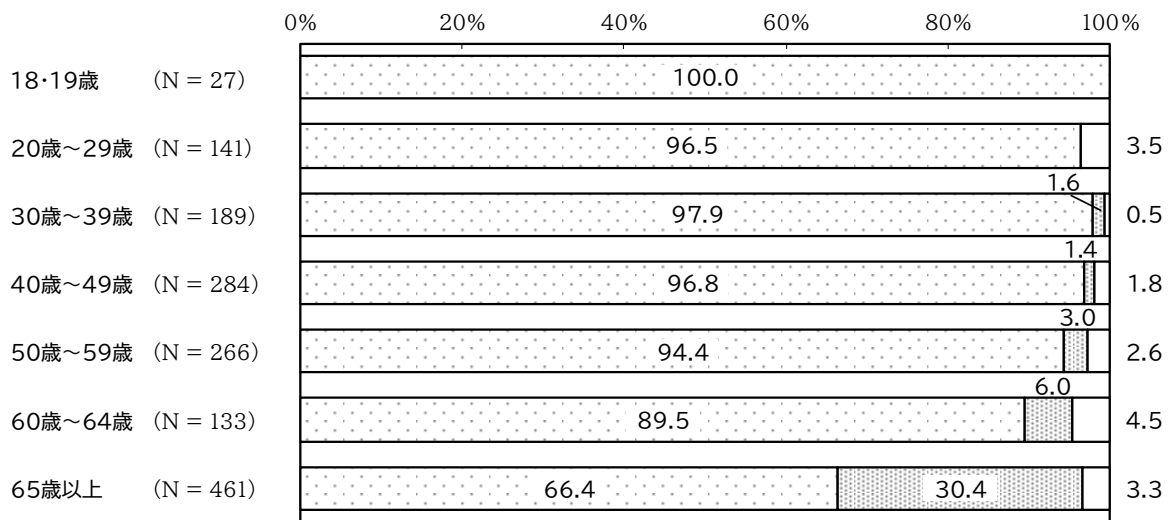
年齢別でみると、他に比べ、30歳～39歳で「活動しようと思わない」の割合が高くなっています。

3 市業務のデジタル化の推進について

問5 パソコンやスマートフォン、タブレットなど、インターネットに接続する電子機器を持っていますか。(どちらかに○)



【年齢別】



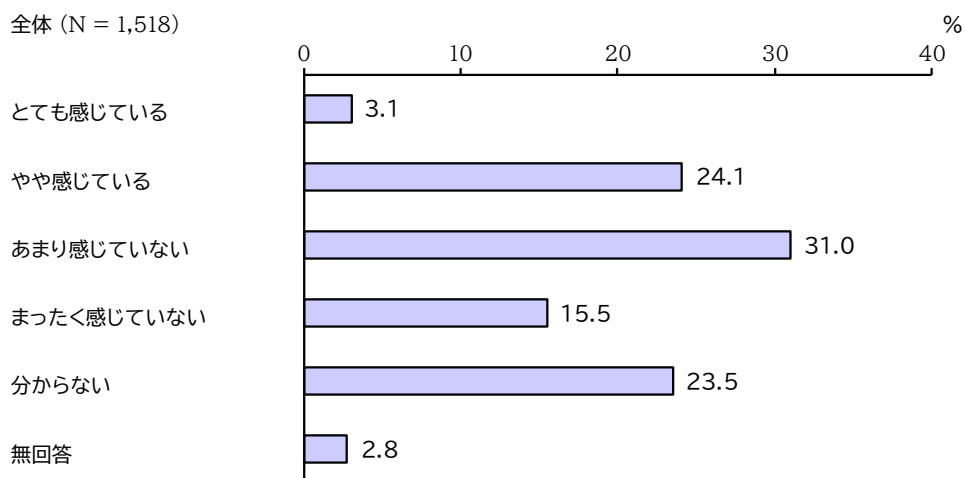
●電子機器を「持っている」方が8割半ば

「持っている」の割合が86.2%、「持っていない」の割合が11.0%となっています。

年齢別でみると、18・19歳から60～64歳までの全ての年代で「持っている」の割合がほぼ9割となっていますが、65歳以上では「持っていない」の割合が高くなっています。

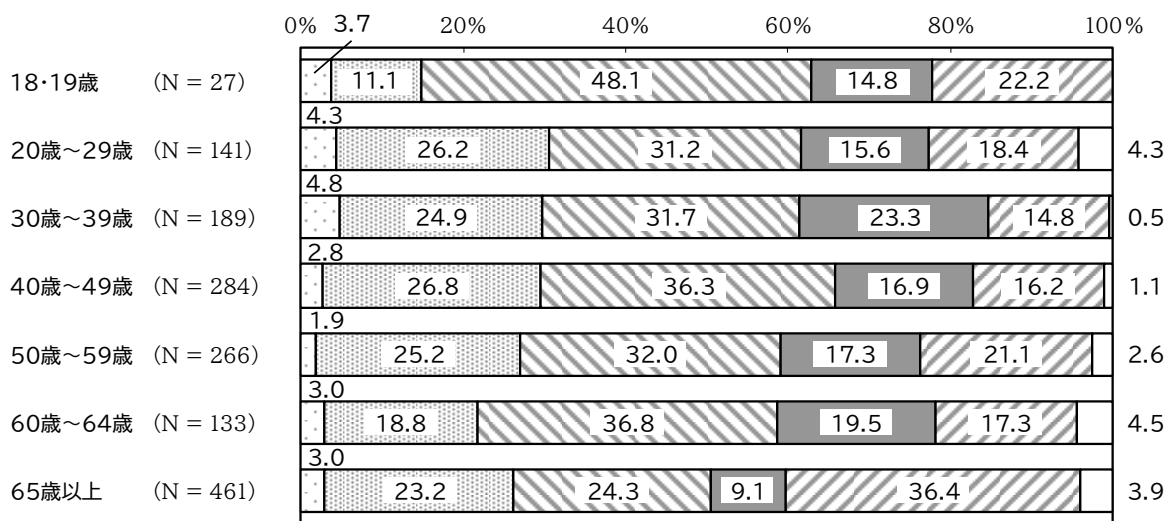
問6 現在、稲沢市ではデジタル化*に向けた取り組みを行っていますが、デジタル化は進んでいると感じますか。(〇は1つだけ)

*ここでの「デジタル化」とは、窓口事務などにおいて、市民の方がパソコンやスマートフォンなどを使用し、来庁せずに電子申請やスマホ決済などができることを指します



【年齢別】

とても感じている
 やや感じている
 あまり感じていない
 まったく感じていない
 分からない
 無回答

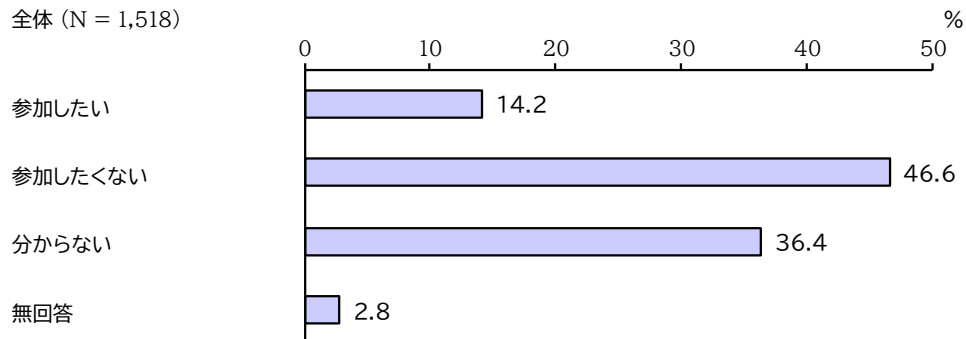


●稲沢市でデジタル化が進んでいると“感じている”方が2割半ば

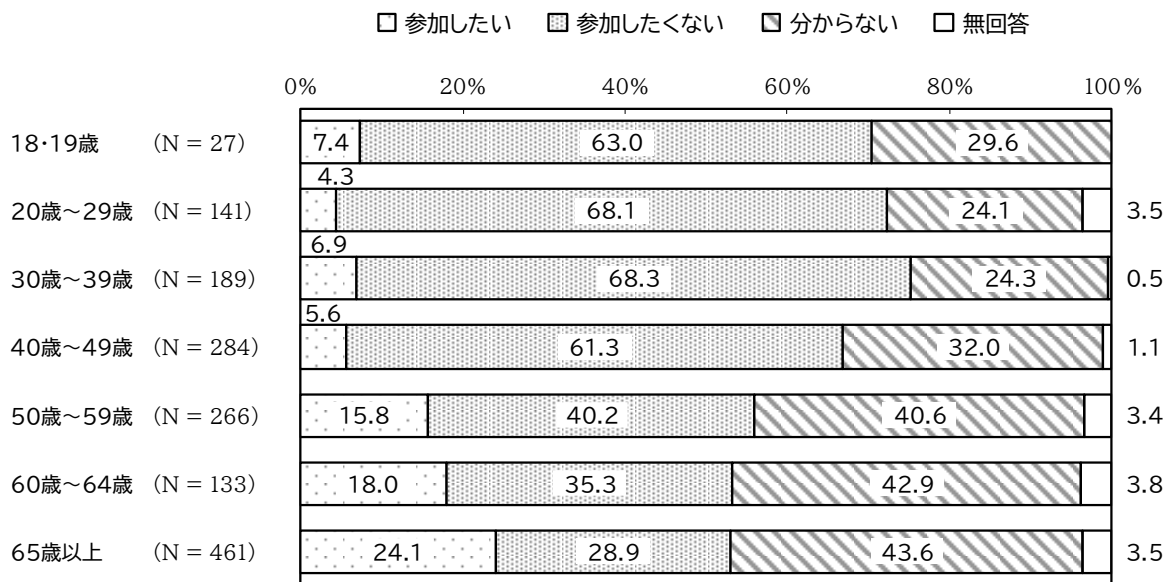
「とても感じている」と「やや感じている」を合わせた“感じている”の割合が27.2%、「あまり感じていない」と「まったく感じていない」を合わせた“感じていない”の割合が46.5%、となっています。

年齢別で見ると、他に比べ、18・19歳で“感じていない”の割合が高くなっています。

問7 スマートフォンの一般的な操作方法をはじめ、マイナンバーカードを活用した各種オンライン申請、マイナポータルを活用方法などの説明が聞ける「スマホ教室」に参加したいと思いますか。(〇は1つだけ)



【年齢別】



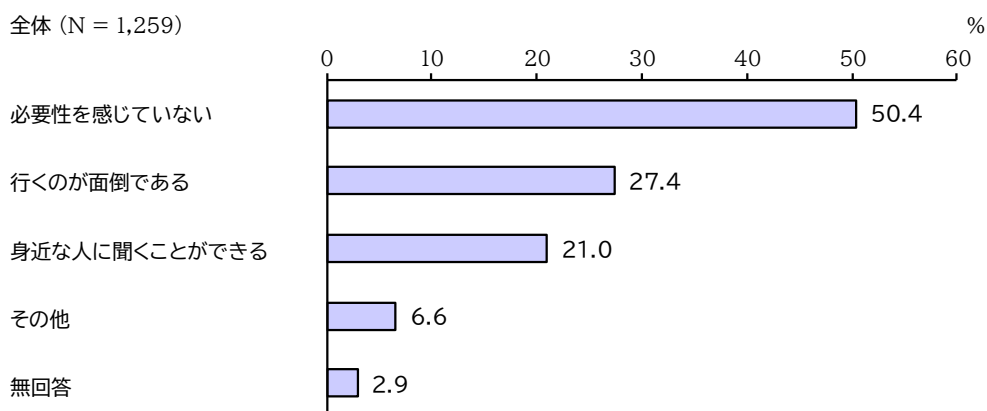
●スマホ教室に「参加したくない」方が4割半ば

「参加したくない」の割合が46.6%と最も高く、次いで「分からない」の割合が36.4%、「参加したい」の割合が14.2%となっています。

年齢別で見ると、18・19歳から40～49歳までの年代では「参加したくない」の割合が高い割合を示していますが、50～59歳から65歳以上の年代では、年代が上がるにつれて「参加したい」の割合が高くなっています。

問7で「2.参加したくない」「3.分からない」と答えた方にお聞きします。

問7-1 その理由は何ですか。(あてはまるもの全てに○)



【年齢別】

単位：%

区分	回答者数 (件)	必要性を感じていない	行くのが面倒である	身近な人に聞くことができる	その他	無回答
18・19歳	25	52.0	32.0	28.0	4.0	—
20歳～29歳	130	64.6	28.5	16.9	3.1	0.8
30歳～39歳	175	57.7	33.1	14.3	5.1	1.7
40歳～49歳	265	57.0	31.7	12.8	7.2	1.1
50歳～59歳	215	45.6	35.3	20.9	4.7	2.8
60歳～64歳	104	46.2	19.2	26.0	3.8	6.7
65歳以上	334	40.1	17.7	30.5	10.8	5.1

●スマホ教室に参加したくない理由は「必要性を感じていない」が5割

「必要性を感じていない」の割合が50.4%と最も高く、次いで「行くのが面倒である」の割合が27.4%、「身近な人に聞くことができる」の割合が21.0%となっています。

年齢別でみると、全ての年代において「必要性を感じていない」の割合が最も高くなっています。

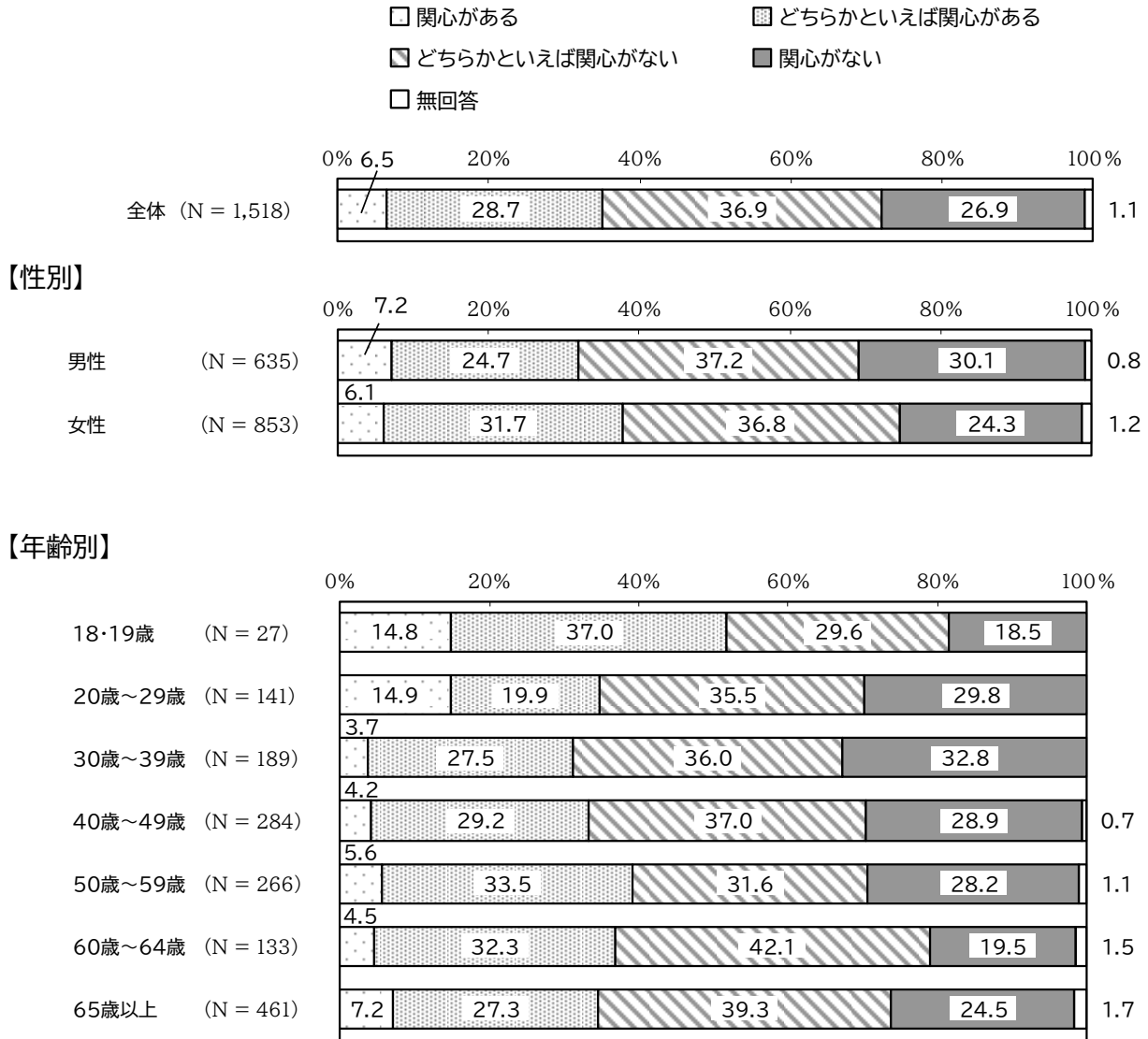
今回の結果から、本市のデジタル化の取り組みに対する捉え方と、スマホ教室に対するニーズを把握することができました。今後は、稲沢市のデジタル化が進んでいると感じていただけるような事業に取り組んでいきます。

4 今後の市民活動の支援のあり方について

問8 市民活動団体*の活動やボランティア団体の活動に関心がありますか。

(○は1つだけ)

*ここでの「市民活動団体」とは、福祉や子育て支援、環境などのさまざまな地域課題の解決のため、営利を目的とせず、自発的・継続的に社会貢献活動を行う団体のことです(例：地域の清掃活動、子ども食堂など)。 ※今回の調査においては、町内会、PTAなどの活動は含みません



●市民団体やボランティア団体の活動に“関心がある”方が3割半ば

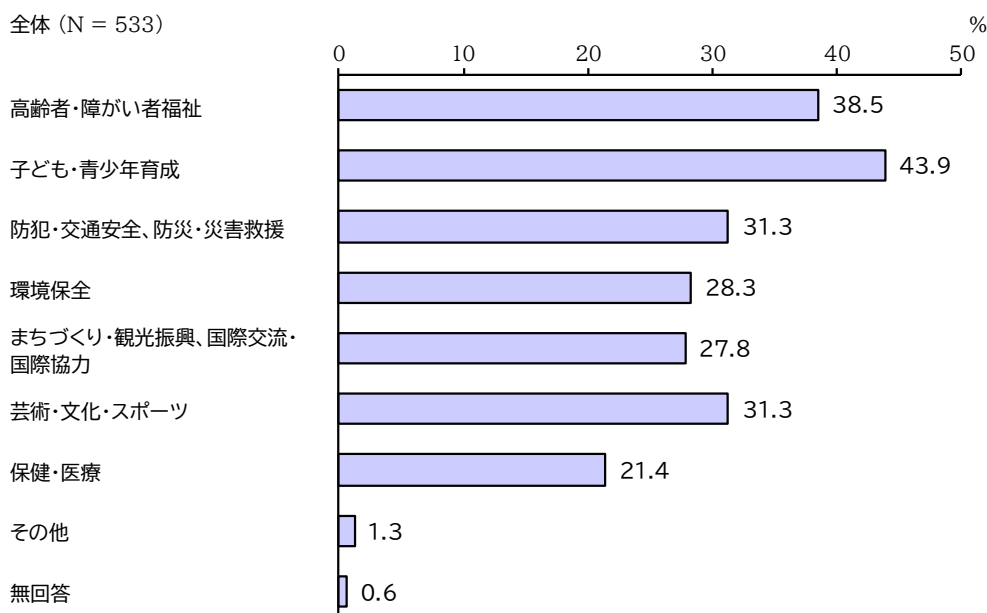
「関心がある」と「どちらかといえば関心がある」を合わせた“関心がある”の割合が35.2%、「どちらかといえば関心がない」と「関心がない」を合わせた“関心がない”の割合が63.8%となっています。

性別でみると、男性に比べ、女性で“関心がある”の割合が高くなっています。

年齢別でみると、他に比べ、18・19歳で“関心がある”の割合が高くなっています。

問8で「1. 関心がある」「2. どちらかといえば関心がある」と答えた方にお聞きします。

問8-1 あなたが関心のある市民活動・ボランティア活動の分野をお答えください。
(あてはまるもの全てに○)



【年齢別】

単位：%

区分	回答者数 (件)	高齢者・障がい者福祉	子ども・青少年育成	防犯・交通安全、防災・災害救援	環境保全	まちづくり・観光振興、国際交流・国際協力	芸術・文化・スポーツ	保健・医療	その他	無回答
18・19歳	14	21.4	50.0	14.3	21.4	35.7	57.1	14.3	—	—
20歳～29歳	49	32.7	55.1	26.5	28.6	38.8	28.6	12.2	—	—
30歳～39歳	59	16.9	71.2	32.2	15.3	27.1	30.5	10.2	1.7	1.7
40歳～49歳	95	35.8	54.7	29.5	24.2	29.5	32.6	30.5	3.2	—
50歳～59歳	104	50.0	42.3	23.1	31.7	32.7	38.5	30.8	—	—
60歳～64歳	49	46.9	44.9	32.7	30.6	22.4	28.6	12.2	2.0	4.1
65歳以上	159	41.5	24.5	39.6	33.3	21.4	26.4	20.8	1.3	—

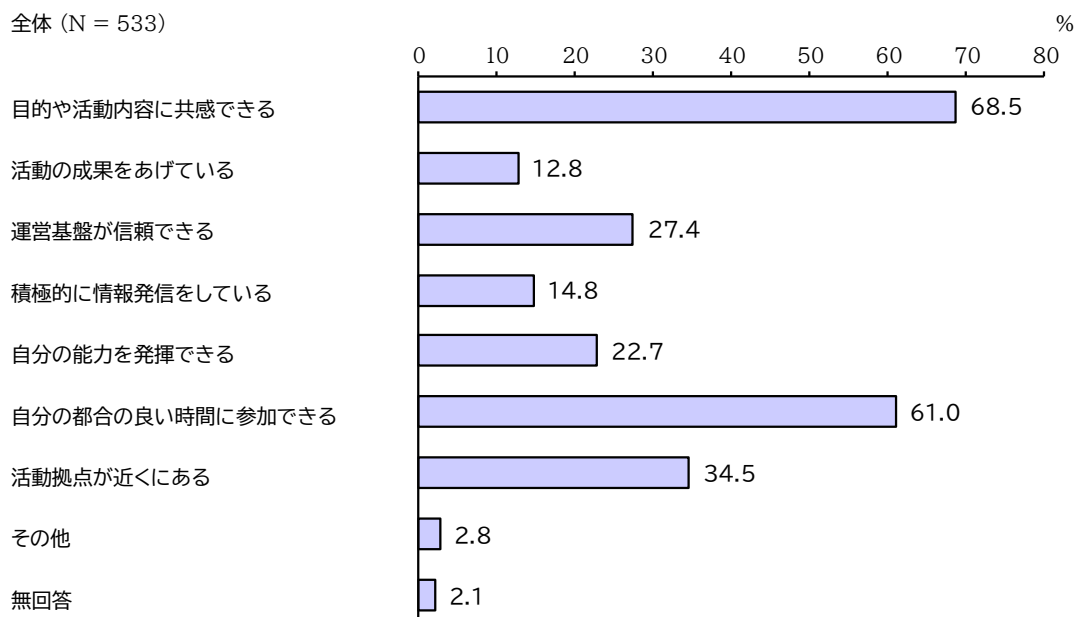
●関心のある市民活動・ボランティア活動は「子ども・青少年育成」が4割超え

「子ども・青少年育成」の割合が43.9%と最も高く、次いで「高齢者・障がい者福祉」の割合が38.5%、「防犯・交通安全、防災・災害救援」、「芸術・文化・スポーツ」の割合が31.3%となっています。

年齢別でみると、18・19歳では「芸術・文化・スポーツ」の割合が高くなっており、20～29歳から40～49歳までの年代では「子ども・青少年育成」の割合が、50～59歳から上の年代では「高齢者・障がい者福祉」の割合が高くなっています。

問8で「1. 関心がある」「2. どちらかといえば関心がある」と答えた方にお聞きします。

問8-2 あなたが市民活動・ボランティア活動に参加する際に重視する点をお答えください。
(あてはまるもの全てに○)



【年齢別】

単位：%

区分	回答者数 (件)	目的や活動内容に共感できる	活動の成果をあげている	運営基盤が信頼できる	積極的に情報発信をしている	自分の能力を発揮できる	自分の都合の良い時間に参加できる	活動拠点が近くにある	その他	無回答
18・19歳	14	78.6	28.6	50.0	35.7	42.9	64.3	42.9	—	7.1
20歳～29歳	49	65.3	16.3	28.6	18.4	28.6	67.3	26.5	6.1	—
30歳～39歳	59	74.6	18.6	32.2	22.0	18.6	54.2	32.2	1.7	1.7
40歳～49歳	95	65.3	12.6	29.5	16.8	26.3	63.2	41.1	3.2	1.1
50歳～59歳	104	77.9	9.6	31.7	14.4	26.9	63.5	35.6	2.9	1.0
60歳～64歳	49	73.5	14.3	34.7	12.2	14.3	59.2	38.8	—	4.1
65歳以上	159	60.4	10.1	16.4	9.4	18.2	59.7	31.4	3.1	3.1

●市民活動・ボランティア活動参加で重視する点として「目的や活動内容に共感できる」と考える方が7割近く

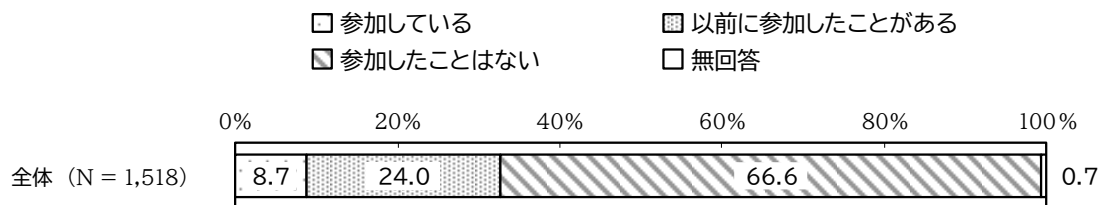
「目的や活動内容に共感できる」の割合が68.5%と最も高く、次いで「自分の都合の良い時間に参加できる」の割合が61.0%、となっています。

年齢別でみると、全ての年代において「目的や活動内容に共感できる」が高い割合となっています。20～29歳については、「自分の都合の良い時間に参加できる」の割合も高くなっています。

今回の結果を市民活動支援センターと共有し、今後の市民活動支援の参考としていきます。

5 第4次稲沢市地域福祉計画・地域福祉活動計画における現状

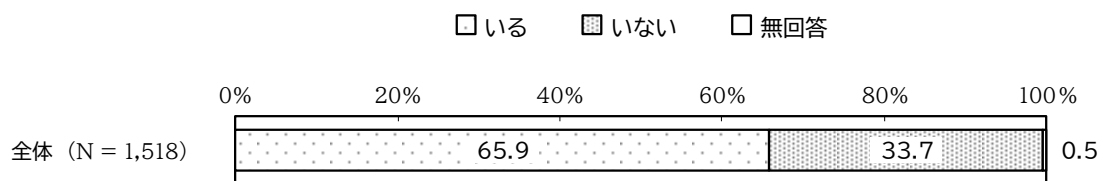
問9 地域の活動やボランティア活動に参加したことがありますか。(〇は1つだけ)



●地域の活動やボランティア活動に「参加したことはない」方が6割半ば

「参加したことはない」の割合が66.6%と最も高く、次いで「以前に参加したことがある」の割合が24.0%となっています。

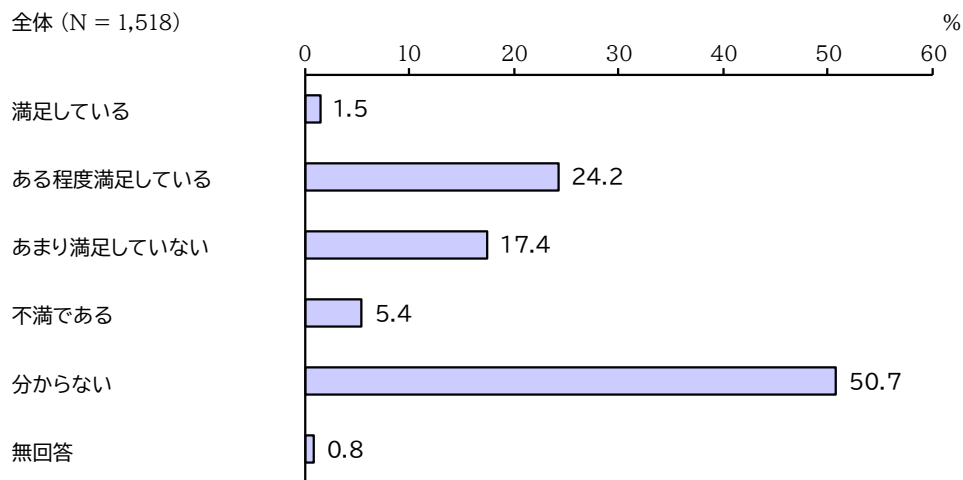
問10 台風などの災害時に避難する際、家族、近所の人など手助けをお願いできる人がいますか。(どちらかに〇)



●災害時に家族、近所の人など手助けをお願いできる方が「いる」という方が6割半ば

「いる」の割合が65.9%、「いない」の割合が33.7%となっています。

問 11 稲沢市の福祉事業・活動全般について、どの程度満足していますか。
(○は1つだけ)



●稲沢市の福祉事業・活動全般に「ある程度満足している」方が約5割

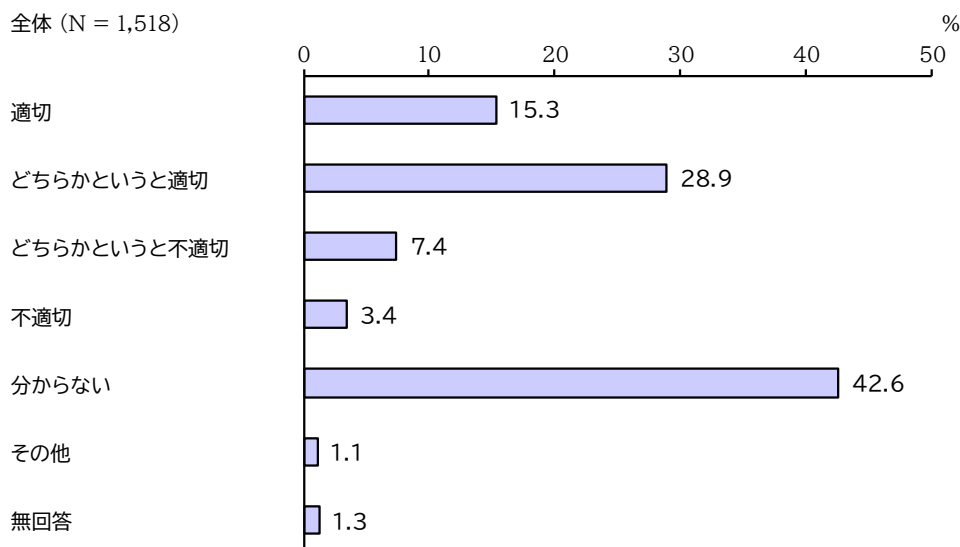
「ある程度満足している」の割合が24.2%、「あまり満足していない」の割合が17.4%となっています。

「第4次稲沢市地域福祉計画・地域福祉活動計画」における目標指標の評価指標として活用し、達成状況を確認できました。

この結果を踏まえ、自助・共助・公助の各取り組みを推進し「地域のみみなでつくる、安心して暮らせるまち」となるよう地域共生社会の実現を進めていきます。

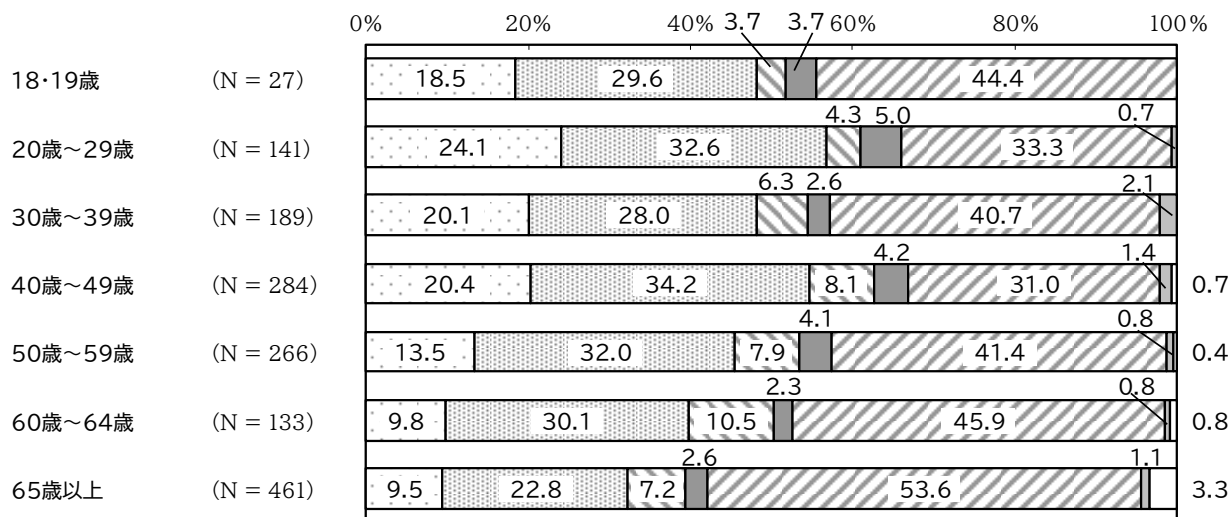
6 将来の学校配置について

問 12 稲沢市では、小学校の学級数の標準規模を 12 学級（各学年 2 学級以上）から 24 学級、中学校の学級数の標準規模を 6 学級（各学年 2 学級以上）から 24 学級と定めています。本市の小中学校の標準規模について、あなたの考えに近いものを選んでください。（○は 1 つだけ）



【年齢別】

適切 どちらかという適切 どちらかという不適切
 不適切 分からない その他
 無回答

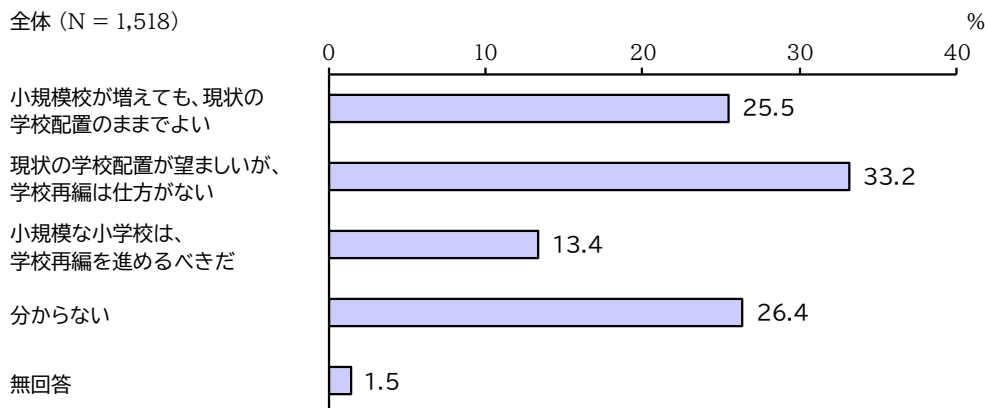


●稲沢市の小中学校の標準規模について“適切”と考える方が4割半ば

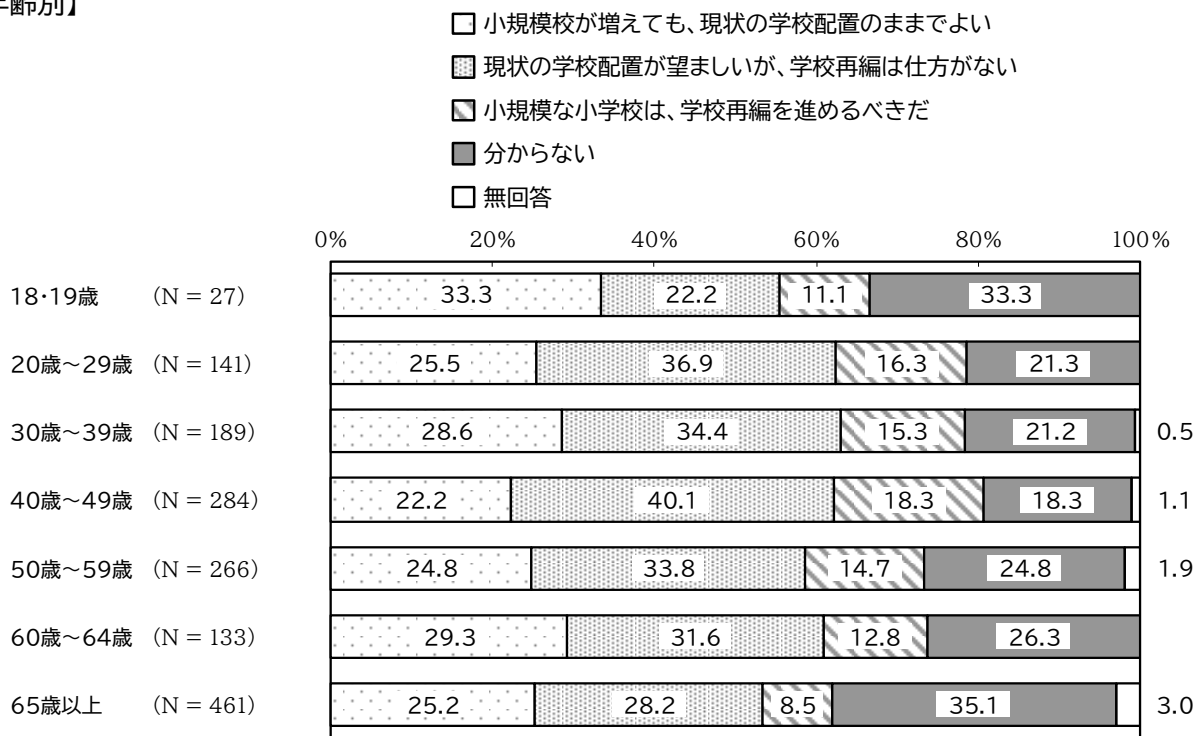
「適切」と「どちらかという適切」を合わせた“適切”の割合が44.2%、「どちらかというと不適切」と「不適切」を合わせた“不適切”の割合が10.8%となっています。

年齢別でみると、18・19歳から50～59歳までの年代で“適切”の割合が4割を超えています。

問 13 稲沢市では、令和4年度現在、中学校の学級数は全て標準規模となっていますが、小学校23校のうち13校は標準規模を下回っており、全ての学年が1学級という小学校も10校あります。また、少子化の影響により、1学級の児童数が15人を下回る小学校も増えることが予想されています。こうした状況の中、本市の小学校の配置について、あなたの考えに近いものを選んでください。(〇は1つだけ)



【年齢別】



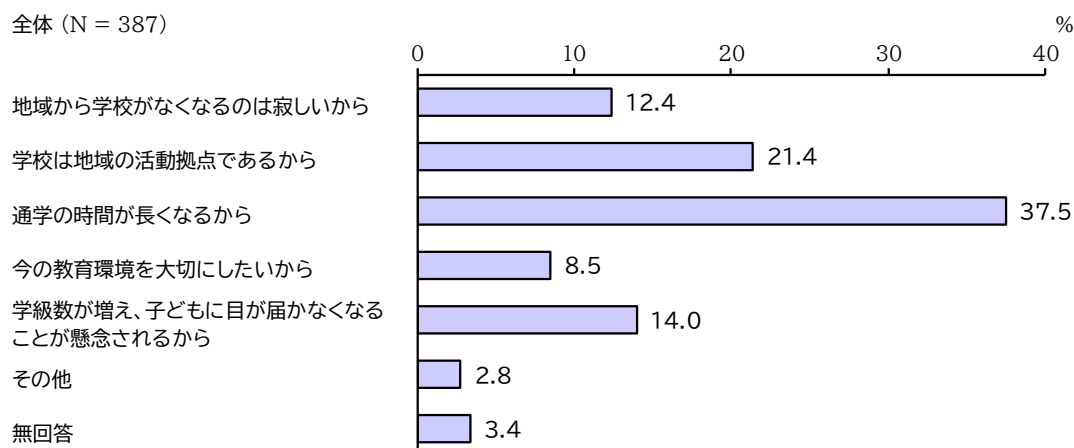
●稲沢市の学校の配置について「現状の学校配置が望ましいが、学校再編は仕方がない」と考える方が3割超え

学校再編については、「現状の学校配置が望ましいが、学校再編は仕方がない」の割合が33.2%と最も高く、次いで「分からない」の割合が26.4%、「小規模校が増えても、現状の学校配置のままでよい」の割合が25.5%となっています。

年齢別で見ると、他に比べ、20～29歳と40歳～49歳で「現状の学校配置が望ましいが、学校再編は仕方がない」「小規模な小学校は、学校再編を進めるべきだ」を合わせた割合が5割を超えています。

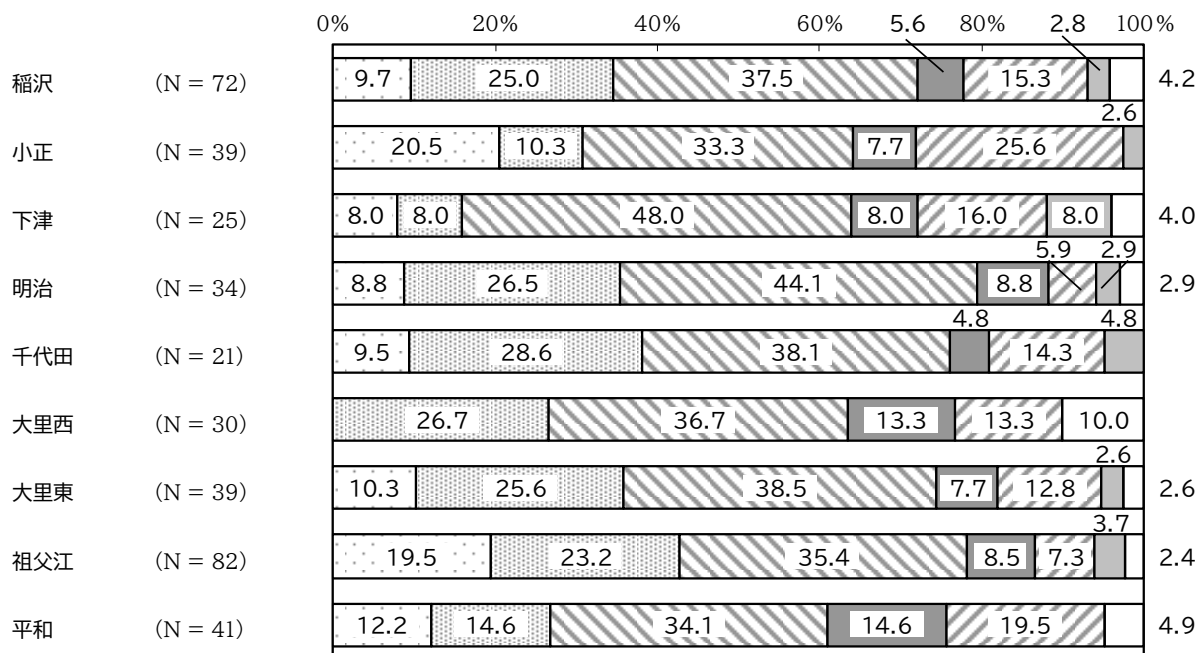
問 13 で「1. 小規模校が増えても、現状の学校配置のままでよい」と答えた方にお聞きします。

問 13-1 選択した理由として、あなたの考えに近いものを選んでください。(〇は1つだけ)



【居住地区別】

- 地域から学校がなくなるのは寂しいから
- 通学の時間が長くなるから
- 学級数が増え、子どもに目が届かなくなることが懸念されるから
- 無回答
- 学校は地域の活動拠点であるから
- 今の教育環境を大切にしたいから
- その他



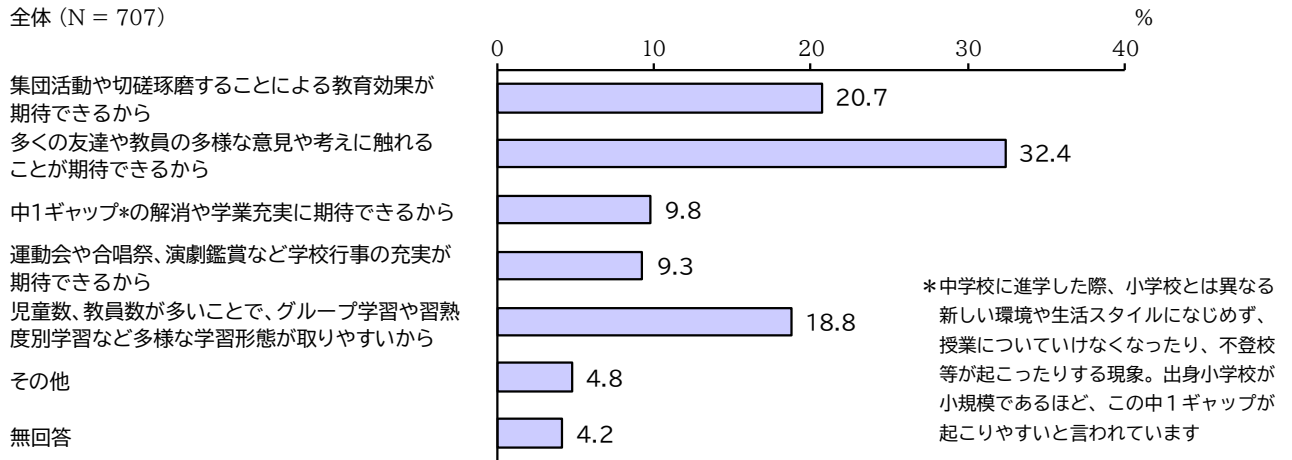
● 「小規模校が増えても、現状の学校配置のままでよい」と答えた理由は「通学の時間が長くなるから」が3割半ば

「通学の時間が長くなるから」の割合が 37.5% と最も高く、次いで「学校は地域の活動拠点であるから」の割合が 21.4%、「学級数が増え、子どもに目が届かなくなることが懸念されるから」の割合が 14.0% となっています。

居住地区別でみると、他に比べ、小正、祖父江地区で「地域から学校がなくなるのは寂しいから」の割合が高く、下津、明治地区では「通学の時間が長くなるから」の割合が高くなっています。

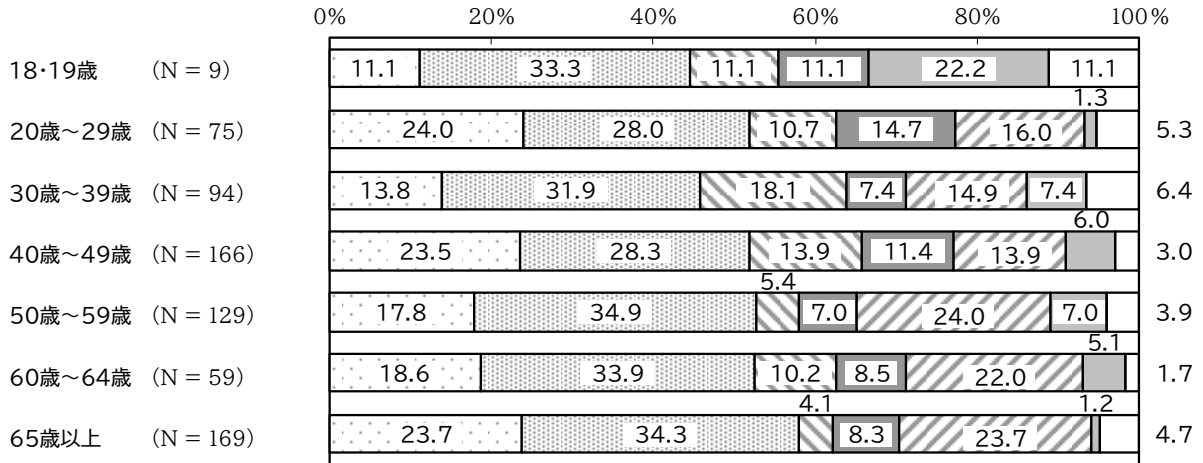
問 13 で「2. 現状の学校配置が望ましいが、学校再編は仕方がない」「3. 小規模な小学校は、学校再編を進めるべきだ」と答えた方にお聞きします。

問 13-2 選択した理由として、あなたの考えに近いものを選んでください。(〇は1つだけ)



【年齢別】

- 集団活動や切磋琢磨することによる教育効果が期待できるから
- 多くの友達や教員の多様な意見や考えに触れることが期待できるから
- 中1ギャップの解消や学業充実に期待できるから
- 運動会や合唱祭、演劇鑑賞など学校行事の充実が期待できるから
- 児童数、教員数が多いことで、グループ学習や習熟度別学習など多様な学習形態が取りやすいから
- その他
- 無回答



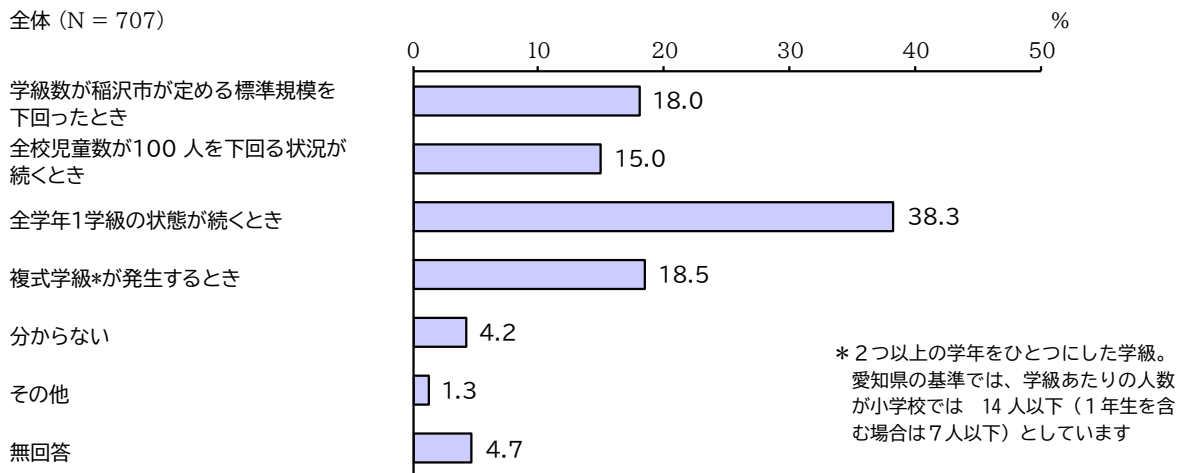
●「現状の学校配置が望ましいが、学校再編は仕方がない」「小規模な小学校は、学校再編を進めるべきだ」と答えた理由は「多くの友達や教員の多様な意見や考えに触れることが期待できるから」が3割超え

「多くの友達や教員の多様な意見や考えに触れることが期待できるから」の割合が 32.4%と最も高く、次いで「集団活動や切磋琢磨することによる教育効果が期待できるから」の割合が 20.7%となっています。

年齢別で見ると、20歳～29歳、40～49歳、65歳以上で「集団活動や切磋琢磨することによる教育効果が期待できるから」の割合も高くなっています。

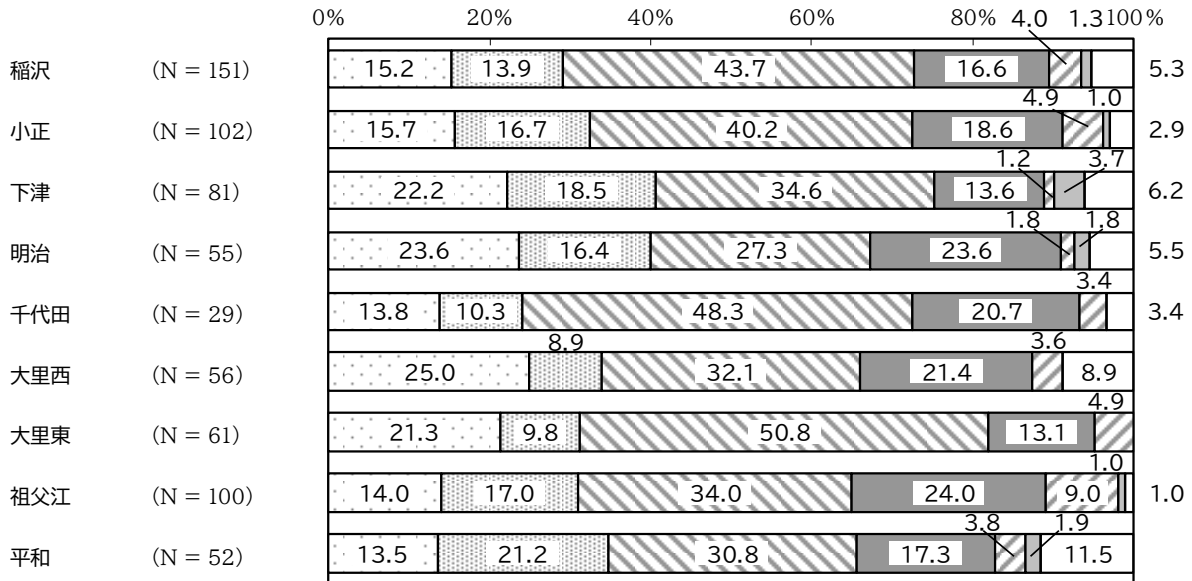
問 13 で「2. 現状の学校配置が望ましいが、学校再編は仕方がない」「3. 小規模な小学校は、学校再編を進めるべきだ」と答えた方にお聞きします。

問 13-3 一般的に、小学校では、どの程度小規模になったら、学校再編が必要であると考えますか。あなたの考えに近いものを選んでください。(○は1つだけ)



【居住地区別】

- 学級数が稲沢市が定める標準規模を下回ったとき
- 全校児童数が100人を下回る状況が続くとき
- 全学年1学級の状態が続くとき
- 複式学級が発生するとき
- 分からない
- その他
- 無回答



●どの程度小規模になったら、学校再編が必要であるかについて「全学年1学級の状態が続くとき」と答えた方が4割近く

「全学年1学級の状態が続くとき」の割合が38.3%と最も高く、次いで「複式学級が発生するとき」の割合が18.5%、「学級数が稲沢市が定める標準規模を下回ったとき」の割合が18.0%となっています。

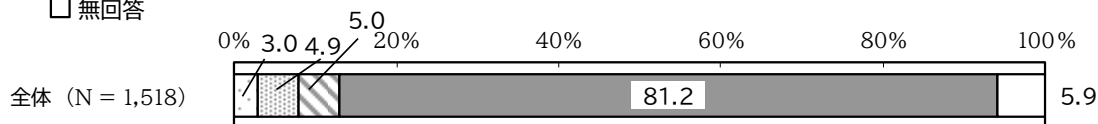
居住地区別でみると、他に比べ、千代田、大里東で「全学年1学級の状態が続くとき」の割合が高くなっています。

市が定める標準規模に満たない小学校が増加する中で、将来的な学校配置の考え方を確認しました。学校再編の検討資料として活用します。

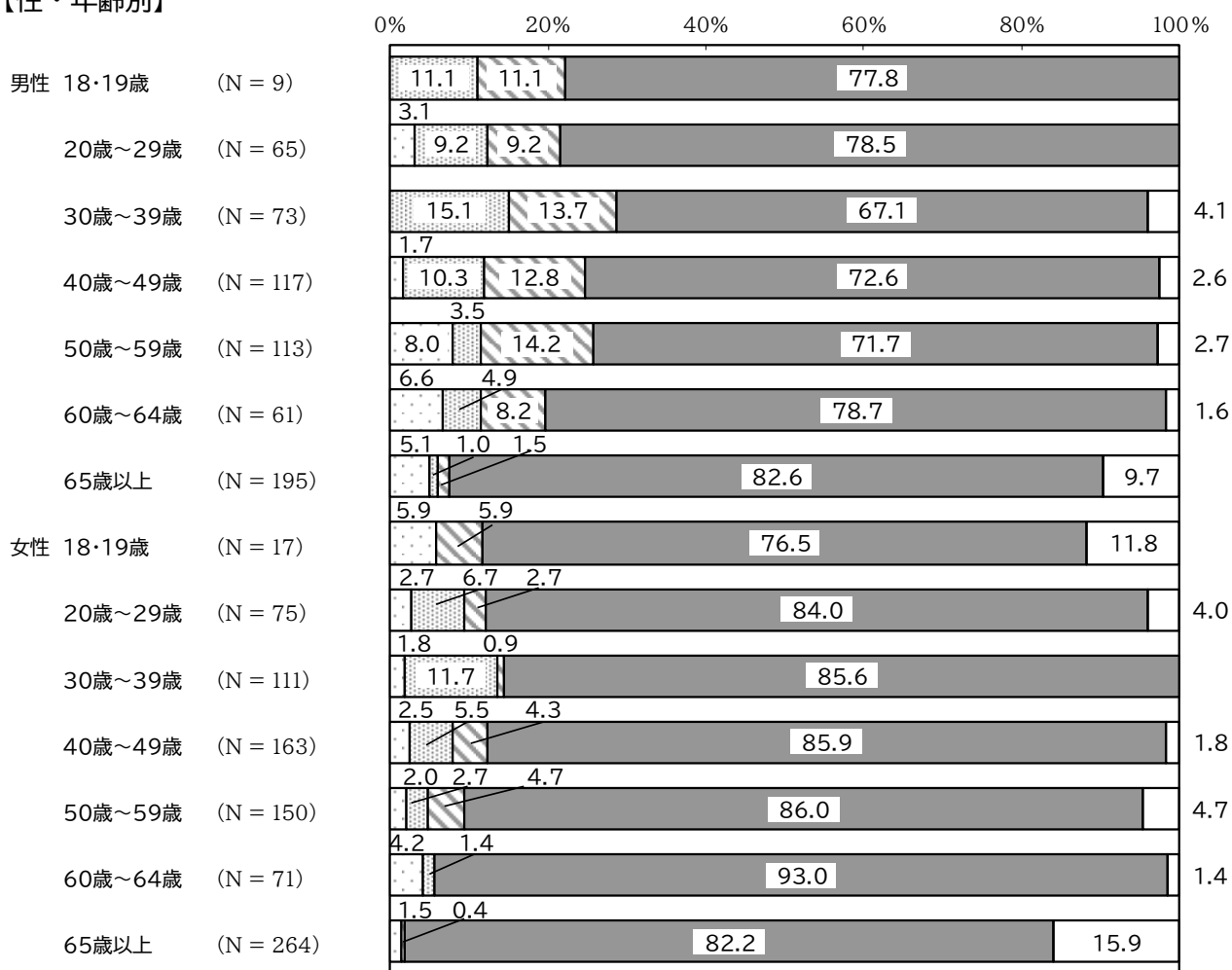
7 創業意識について

問 14 稲沢市では、令和4年6月に創業経営支援センター「スタートアップいなざわ」を市役所に設置し、創業者、事業者の皆様の相談に対応しています。ご自身で事業を営む創業について、どう考えていますか。(〇は1つだけ)

- 創業する予定で、事業内容も決めている。既に事業を営んでいる(営んでいた)
- 内容は未定だが、いつかは創業して自分で事業を営んでみたい
- 今は考えていないが、退職したら考える可能性がある
- 自身が創業する可能性はない(低い)
- 無回答



【性・年齢別】



●ご自身で事業を営む創業について「自身が創業する可能性はない(低い)」と答えた方が8割超え

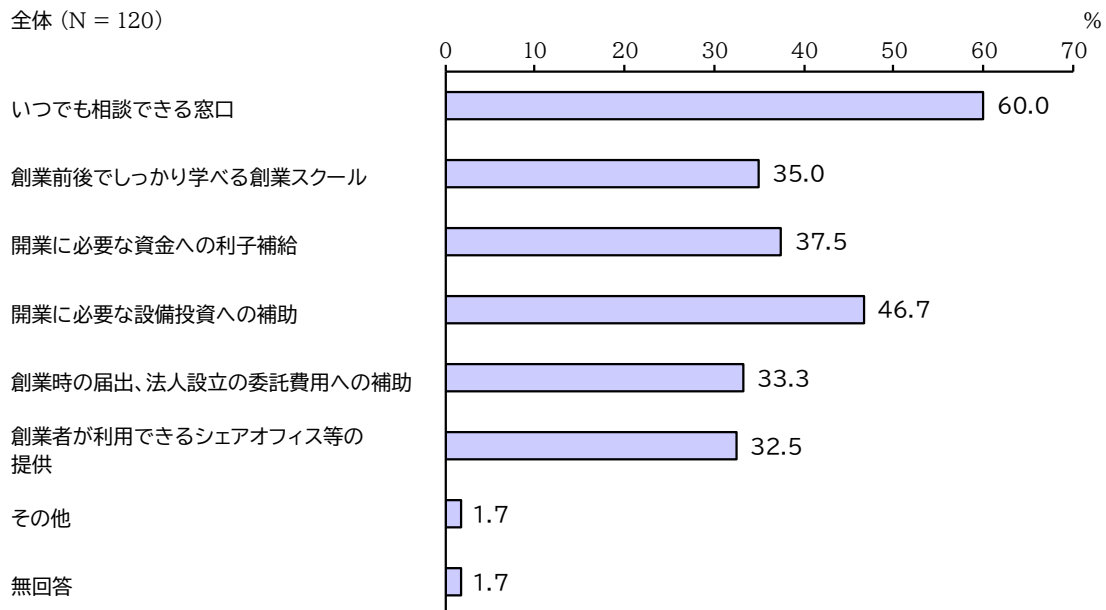
「自身が創業する可能性はない(低い)」の割合が81.2%と最も高くなっています。

性別でみると、男性に比べ、女性で「自身が創業する可能性はない(低い)」の割合が高くなっています。

一方、男性においては、“創業する予定”または“創業する可能性がある”方の割合が高くなっています。

問 14 で「1. 創業する予定で、事業内容も決めている。既に事業を営んでいる（営んでいた）」「2. 内容は未定だが、いつかは創業して自分で事業を営んでみたい」と答えた方にお聞きします。

問 14-1 あったら良い（良かった）と考える支援策はありますか。
（あてはまるもの全てに○）



【性・年齢別】

単位：%

区分	有効回答数(件)	いつでも相談できる窓口	創業前後でしっかりと学べる創業スクール	開業に必要な資金への利子補給	開業に必要な設備投資への補助	創業時の届出、法人設立の委託費用への補助	創業者が利用できるシェアオフィス等の提供	その他	無回答
男性 18・19歳	1	100.0	-	-	-	-	-	-	-
20～29歳	8	50.0	37.5	62.5	62.5	62.5	37.5	12.5	-
30～39歳	11	63.6	63.6	54.5	72.7	45.5	54.5	-	-
40～49歳	14	42.9	35.7	50.0	50.0	42.9	50.0	-	-
50～59歳	13	76.9	30.8	30.8	38.5	23.1	30.8	-	-
60～64歳	7	42.9	42.9	42.9	57.1	28.6	42.9	-	-
65歳以上	12	58.3	8.3	16.7	25.0	33.3	16.7	-	8.3
女性 18・19歳	1	100.0	100.0	-	-	-	-	-	-
20～29歳	7	28.6	14.3	71.4	57.1	57.1	28.6	-	-
30～39歳	15	60.0	40.0	40.0	46.7	33.3	46.7	-	-
40～49歳	13	61.5	46.2	30.8	46.2	38.5	30.8	-	-
50～59歳	7	71.4	-	14.3	42.9	-	14.3	14.3	-
60～64歳	4	100.0	50.0	50.0	75.0	25.0	-	-	-
65歳以上	4	75.0	50.0	-	25.0	-	-	-	25.0

●あつたら良い(良かった)と考える支援策で「いつでも相談できる窓口」と答えた方が6割

創業にあたっては、「いつでも相談できる窓口」の割合が60.0%と最も高くなっています。

性・年齢別でみると、男性20～29歳から40～49歳および60～64歳、女性20～29歳では、開業に向けての“資金補給・補助”の割合が高くなっています。一方、女性は20～29歳以外の全ての年代で、「いつでも相談できる窓口」の割合が高くなっています。

創業に関する意識、支援策について調査した結果、創業する予定の方や可能性がある方は、全体の12.9%に止まることが分かりました。また、創業したい方の支援策のニーズも確認ができましたので、今後の創業支援に活用していきます。

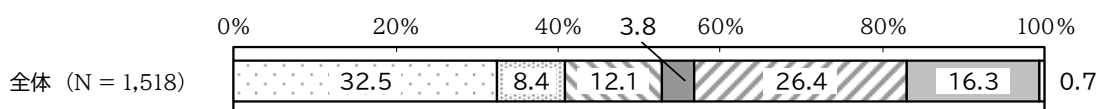
8 「合葬墓・樹木葬*」の市民ニーズについて

*「合葬墓」…多数のご遺骨を共同で埋蔵される墓地のことをいいます

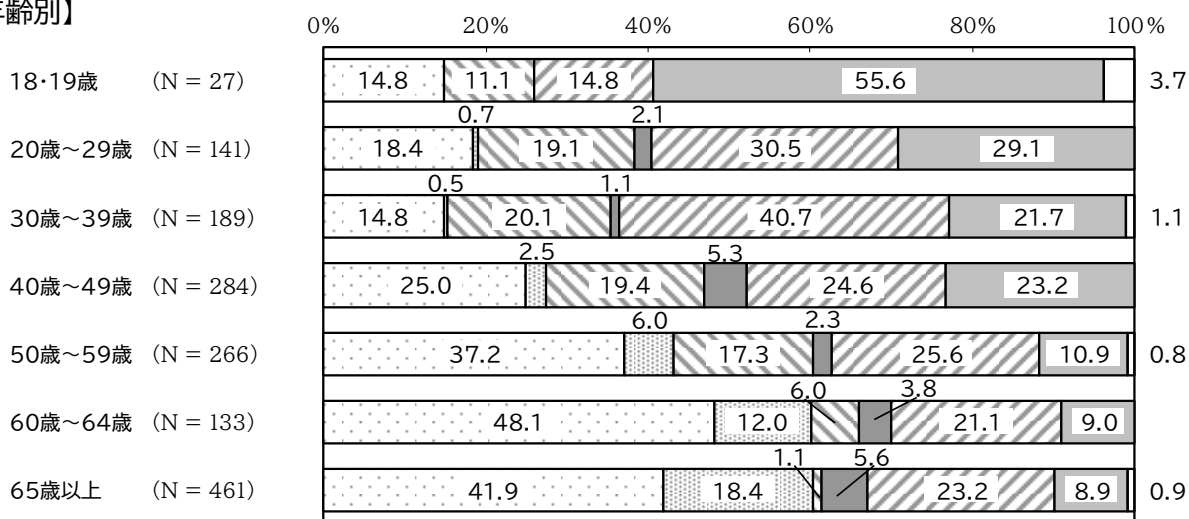
*「樹木葬」…桜やハナミズキなどの樹木をシンボルツリーとしてまわりにご遺骨が埋葬される墓地のことをいいます

問 15 現在、お墓または納骨堂をお持ちですか。または取得予定ですか。
(○は1つだけ)

- 先祖のお墓や納骨堂を受け継いでいる
- 自分で取得して持っている
- 現在は持っていないが、親などから引き継ぐ予定
- 新たに取得する予定
- 持っていないし、引き継ぐ予定もない
- 分からない
- 無回答



【年齢別】



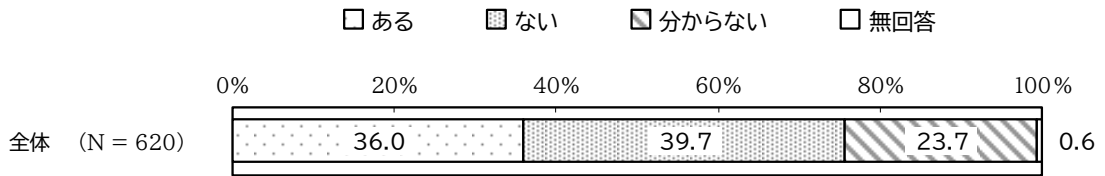
●お墓または納骨堂を「先祖のお墓や納骨堂を受け継いでいる」方が3割超え

「先祖のお墓や納骨堂を受け継いでいる」の割合が32.5%と最も高く、次いで「持っていないし、引き継ぐ予定もない」の割合が26.4%、「分からない」の割合が16.3%となっています。

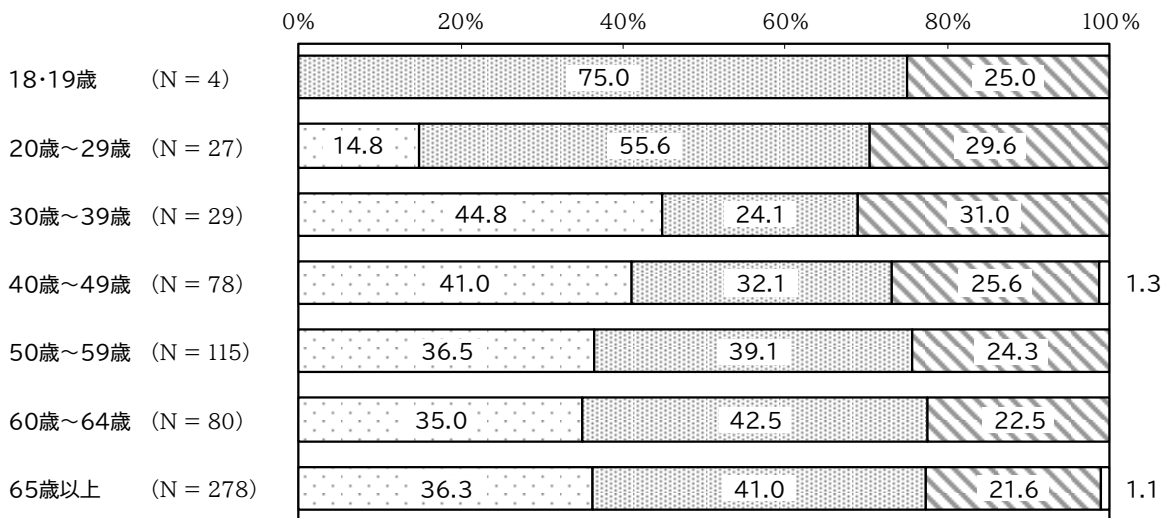
年齢別でみると、他に比べ、50～59歳以上の年代で「先祖のお墓や納骨堂を受け継いでいる」の割合が、30歳～39歳で「持っていないし、引き継ぐ予定もない」の割合が高くなっています。

問 15 で「1. 先祖のお墓や納骨堂を受け継いでいる」「2. 自分で取得して持っている」と答えた方にお聞きします。

問 15-1 将来、墓じまいをお考えになったことはありますか。(〇は1つだけ)



【年齢別】

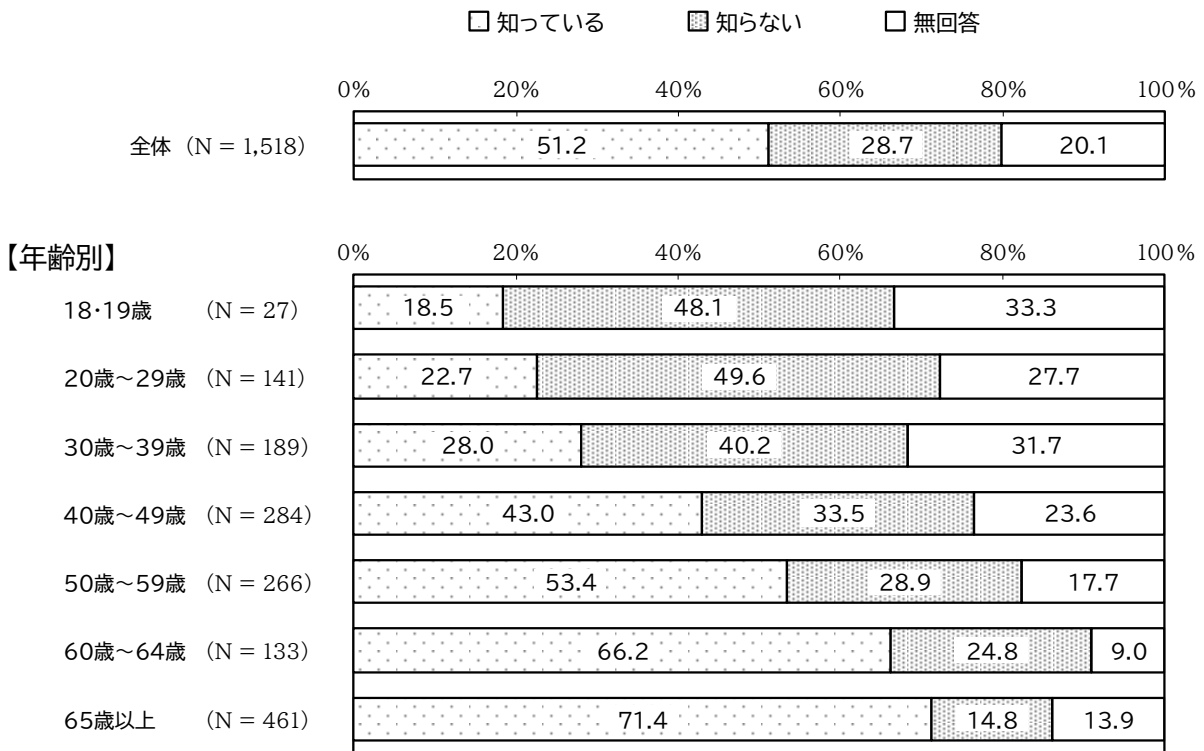


●将来、墓じまいを考えたことが「ない」方が約4割

「ない」の割合が39.7%と最も高く、次いで「ある」の割合が36.0%、「分からない」の割合が23.7%となっています。

年齢別でみると、30～39歳、40～49歳で「ある」の割合が4割を超え、それ以外の年齢層では「ない」の割合が約4割以上となっています。

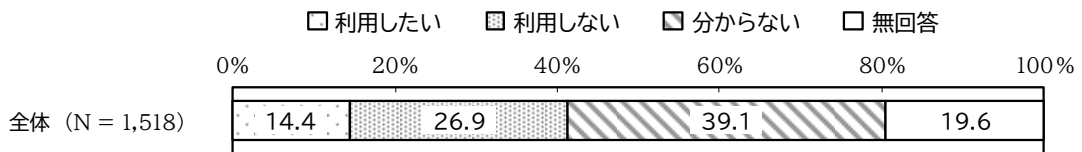
問 16 「合葬墓」や「樹木葬」と呼ばれているお墓をご存じですか。(どちらかに○)



● 「合葬墓」や「樹木葬」と呼ばれているお墓を「知っている」方が5割超え

「知っている」の割合が51.2%、「知らない」の割合が28.7%となっています。
年齢別でみると、年齢が高くなるにつれて「知っている」の割合が高くなっています。

問 17 市営墓地である祖父江霊園内に合葬墓や樹木葬を設置した場合、利用したいですか。



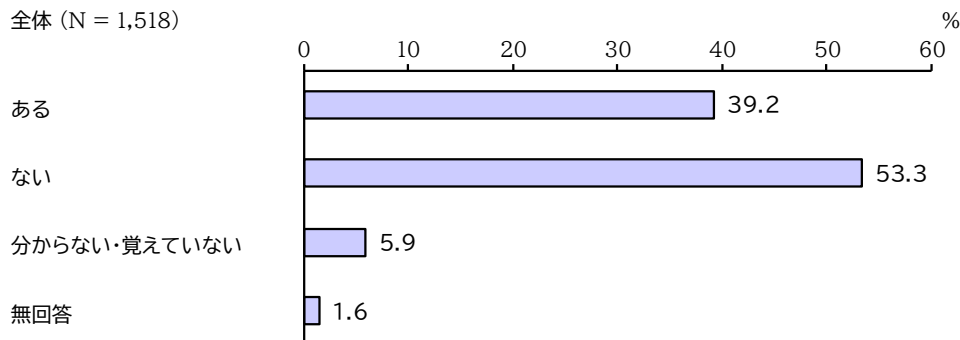
● 市営墓地である祖父江霊園内に合葬墓や樹木葬を設置した場合、「利用しない」方が2割半ば

「分からない」の割合が39.1%と最も高く、次いで「利用しない」の割合が26.9%、「利用したい」の割合が14.4%となっています。

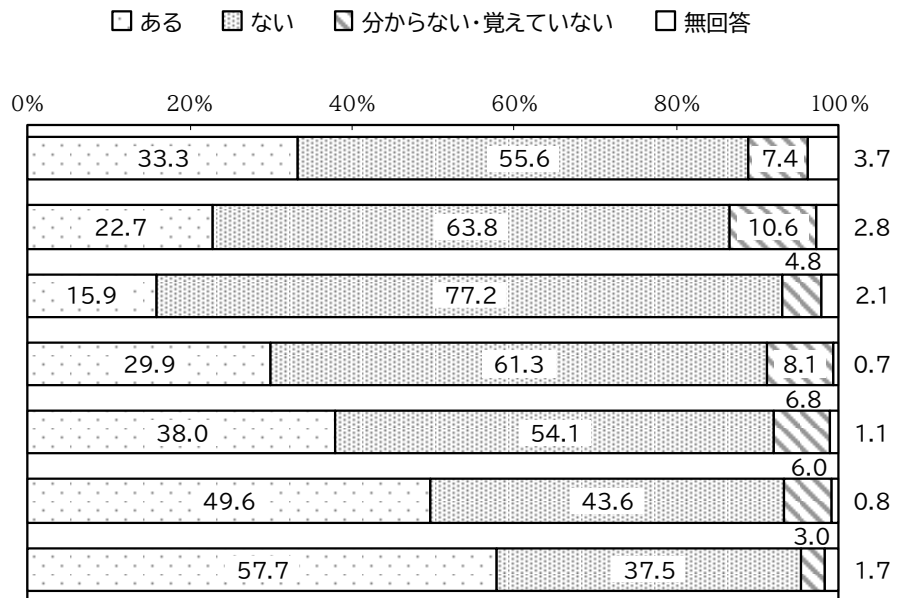
今回の結果を踏まえて墓石を前提とした墓所の貸し付けに加え、樹木葬や合葬墓の設置を検討していきます。

9 荻須記念美術館への来館状況について

問 18 これまでに、学校の授業等ではなく、プライベートで荻須記念美術館を訪れ、荻須高德画伯の絵画を鑑賞したことがありますか。(〇は1つだけ)



【年齢別】



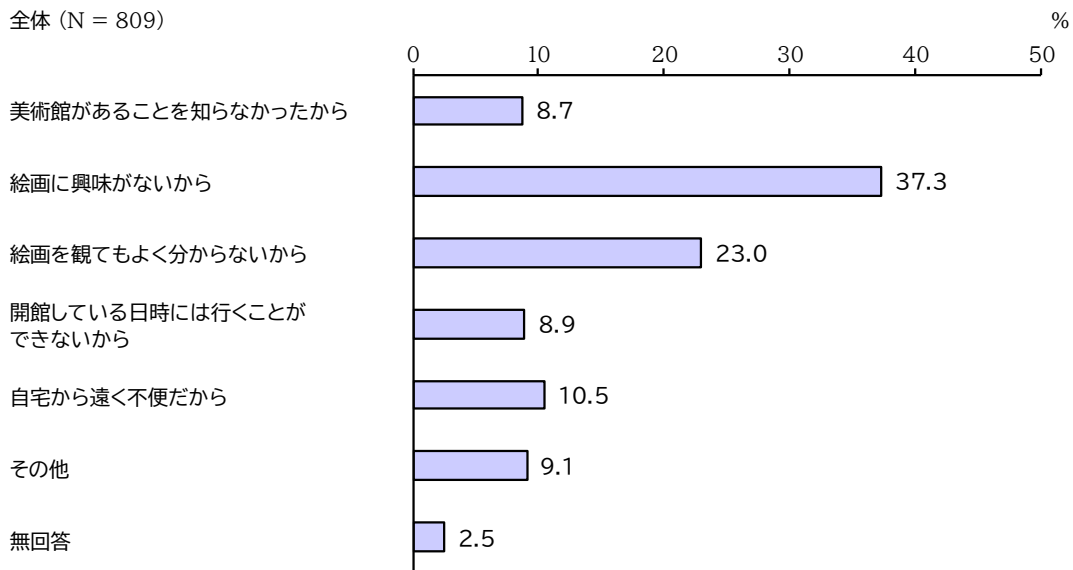
●荻須高德画伯の絵画を鑑賞したことが「ない」方が5割超え

「ない」の割合が53.3%と最も高く、学校の授業等以外で、美術館へ来館したことがない方が半数を超える結果となりました。

年齢別でみると、他に比べ、60～64歳以上で「ある」の割合が高くなっています。

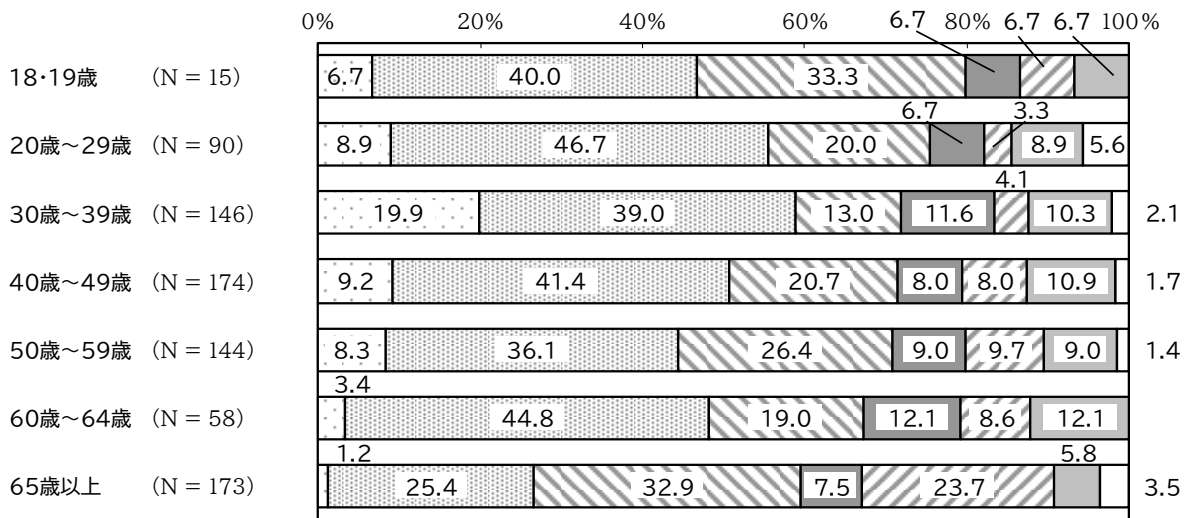
問18で「2. ない」と答えた方にお聞きします。

問18-1 その理由として、最も近いものは何ですか。(〇は1つだけ)



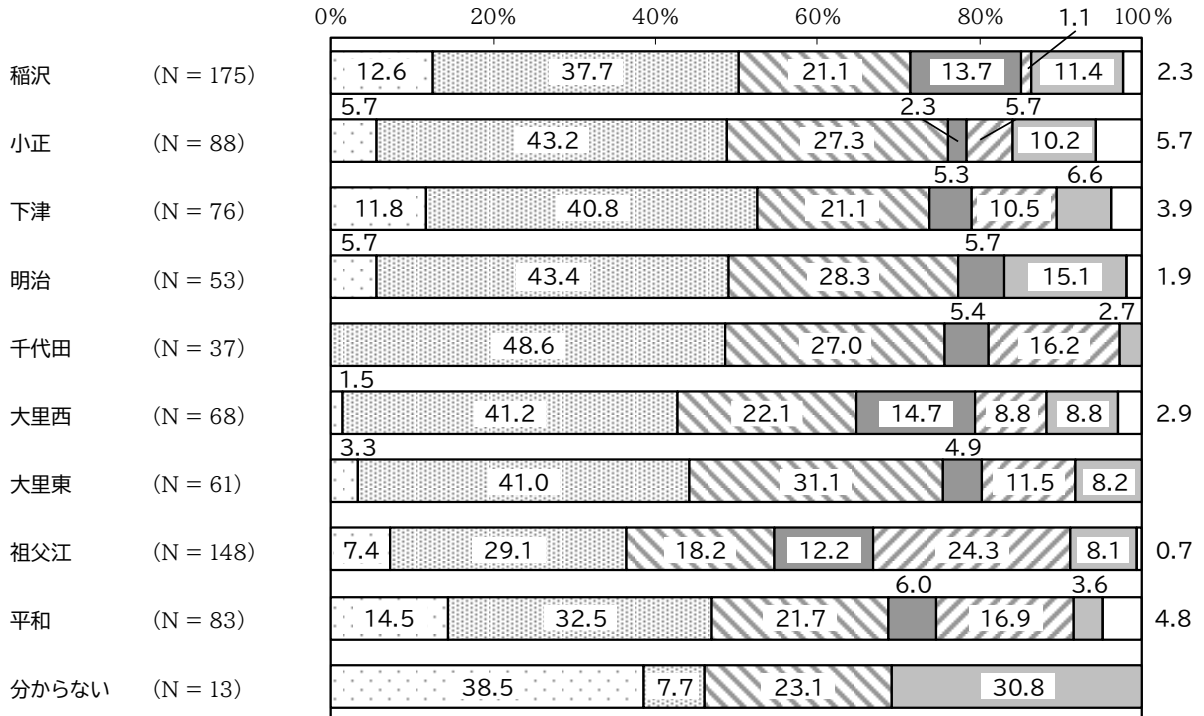
【年齢別】

- 美術館があることを知らなかったから
- 絵画に興味がないから
- 絵画を観てもよく分からないから
- 開館している日時には行くことができないから
- 自宅から遠く不便だから
- その他
- 無回答



【居住地区別】

- 美術館があることを知らなかったから
- ▨ 絵画に興味がないから
- ▩ 絵画を観てもよく分からないから
- 開館している日時には行くことができないから
- ▧ 自宅から遠く不便だから
- その他
- 無回答



●荻須高德画伯の絵画を鑑賞したことが「ない」理由として「絵画に興味がないから」と答えた方が4割近く

「絵画に興味がないから」の割合が37.3%と最も高く、次いで「絵画を観てもよく分からないから」の割合が23.0%、「自宅から遠く不便だから」の割合が10.5%となっています。

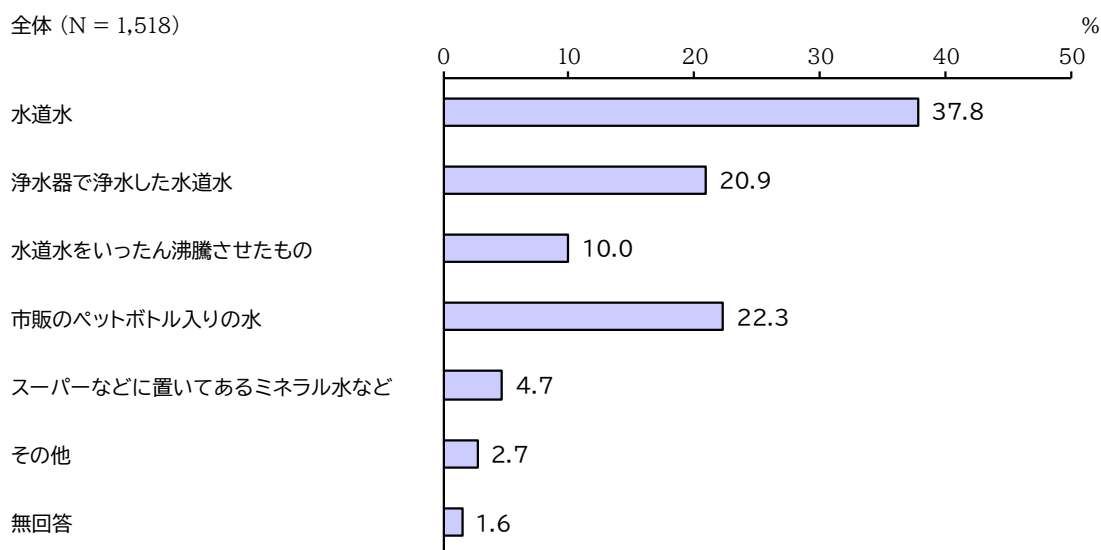
年齢別でみると、他に比べ、30歳～39歳で「美術館があることを知らなかったから」の割合が高くなっています。

居住地区別でみると、他に比べ、千代田で「絵画に興味がないから」の割合が、祖父江で「自宅から遠く不便だから」の割合が高くなっています。

約半数が荻須画伯の絵画を観たことがなく、特に40歳代以下の世代で「ない」と回答した方の割合が多いことが分かりました。またその理由として「興味がない」に次いで「絵画を観てもよく分からない」があがりました。若い世代を中心に荻須作品や美術館の魅力を伝えられるよう、引き続き展示解説を実施するとともに各種広報、情報発信に努めていきます。

10 安全でおいしい水のPR効果について

問19 飲料水として、最も利用する水は何ですか。(〇は1つだけ)



【年齢別】

単位：%

区分	有効回答数(件)	水道水	浄水器で浄水した水道水	水道水をいったん沸騰させたもの	市販のペットボトル入りの水	スーパーなどに置いてあるミネラル水など	その他	無回答
18・19歳	27	18.5	22.2	7.4	40.7	3.7	3.7	3.7
20歳～29歳	141	24.1	24.1	7.8	27.7	12.1	3.5	0.7
30歳～39歳	189	28.0	27.5	10.6	24.3	3.7	3.7	2.1
40歳～49歳	284	29.2	24.3	9.2	29.6	4.2	2.8	0.7
50歳～59歳	266	38.0	20.3	10.2	24.4	2.6	3.8	0.8
60歳～64歳	133	36.1	24.8	9.0	23.3	3.0	3.0	0.8
65歳以上	461	52.9	14.1	11.5	12.6	5.0	1.3	2.6

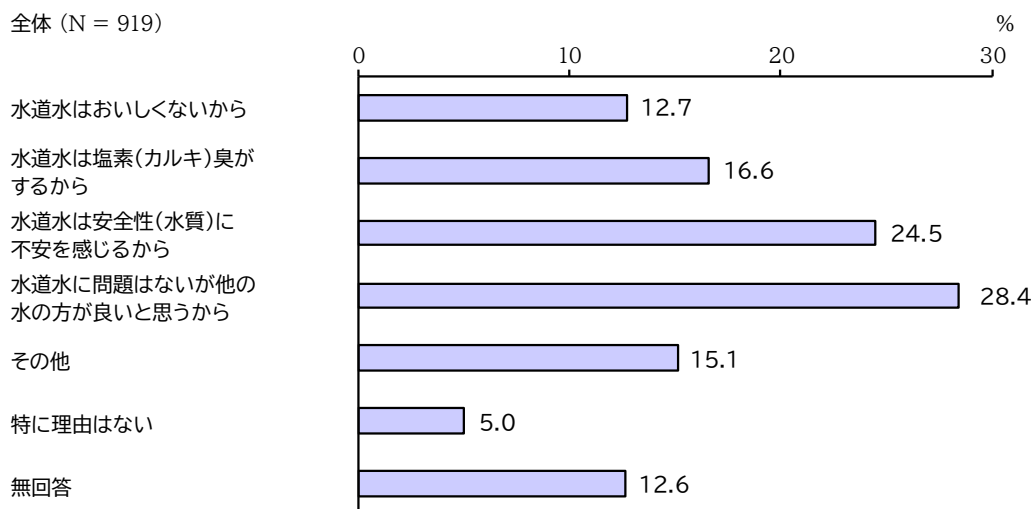
●飲料水として、最も利用する水が「水道水」の方が4割近く

「水道水」の割合が37.8%と最も高く、次いで「市販のペットボトル入りの水」の割合が22.3%、「浄水器で浄水した水道水」の割合が20.9%となっています。

年齢別で見ると、他に比べ、65歳以上で「水道水」の割合が、18・19歳で「市販のペットボトル入りの水」の割合が高くなっています。

問 19 で「1. 水道水」以外と答えた方にお聞きします。

問 19-1 その理由は何ですか。(あてはまるもの全てに○)



【年齢別】

単位：%

区分	回答者数(件)	水道水はおいしくないから	水道水は塩素(カルキ)臭がするから	水道水は安全性(水質)に不安を感じるから	水道水に問題はないが他の水の方が良いと思うから	特に理由はない	その他	無回答
18・19歳	21	33.3	4.8	28.6	23.8	14.3	4.8	4.8
20歳～29歳	106	17.9	11.3	25.5	22.6	22.6	9.4	8.5
30歳～39歳	132	16.7	18.2	40.2	19.7	10.6	5.3	12.1
40歳～49歳	199	11.6	14.6	23.6	35.7	10.1	6.5	11.1
50歳～59歳	163	11.7	17.8	29.4	32.5	13.5	4.9	8.6
60歳～64歳	84	11.9	22.6	20.2	29.8	13.1	1.2	11.9
65歳以上	205	7.8	18.0	12.7	25.9	21.5	2.9	21.0

●「水道水」以外を飲む理由として「水道水に問題はないが他の水の方が良いと思うから」と答えた方が3割近く

「水道水に問題はないが他の水の方が良いと思うから」の割合が28.4%と最も高く、次いで「水道水は安全性(水質)に不安を感じるから」の割合が24.5%となっています。

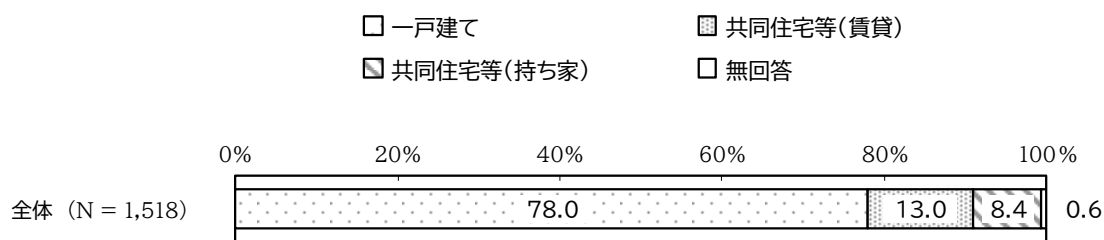
年齢別でみると、他に比べ、18・19歳で「水道水はおいしくないから」の割合が、30歳～39歳で「水道水は安全性(水質)に不安を感じるから」の割合が高くなっています。

第2期水道ビジョンで示されている目標の実現方策である「水質管理体制の充実と対策の実施」および「情報発信」における達成度の検証に活用していきます。

また、水道水を飲料水として使っていただけるよう、石橋浄水場で採水して作成したペットボトル「いなざわの水」を消費生活展など各種イベントで配布し、水道水のおいしさと安全性をPRし、その効果の検証に活用していきます。

11 住宅用火災警報器について

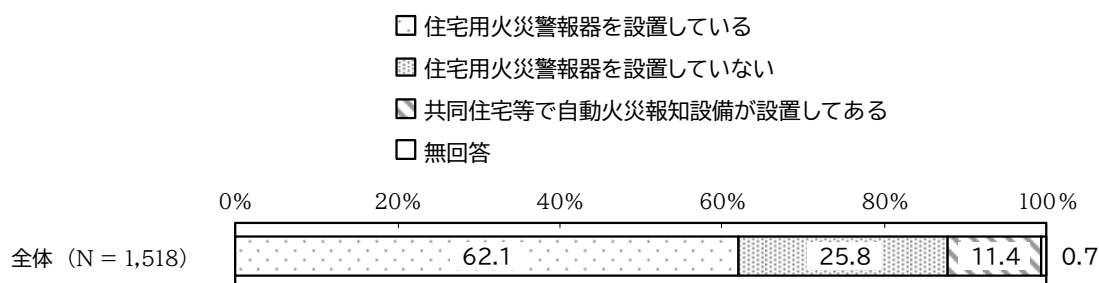
問 20 お住まいの住宅は、次のうちどちらに該当しますか。(○は1つだけ)



●お住まいの住宅が「一戸建て」の方が8割近く

「一戸建て」の割合が78.0%と最も高く、次いで「共同住宅等（賃貸）」の割合が13.0%となっています。

問 21 お住まいの住宅は、次のうちどちらに該当しますか。(○は1つだけ)

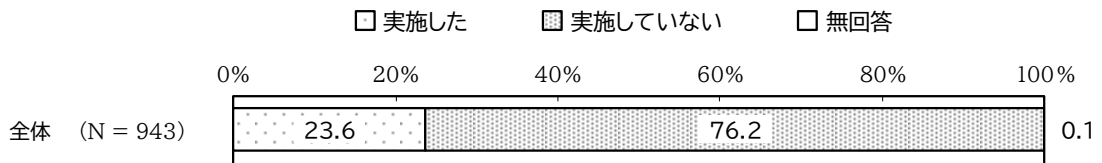


●お住まいの住宅に「住宅用火災警報器を設置している」方が6割超え

「住宅用火災警報器を設置している」の割合が62.1%と最も高く、次いで「住宅用火災警報器を設置していない」の割合が25.8%、「共同住宅等で自動火災報知設備が設置してある」の割合が11.4%となっています。

問 21 で「1. 設置している」と答えた方にお聞きします。

問 21-1 住宅用火災警報器の作動確認を半年以内に実施しましたか。
(どちらかに○)

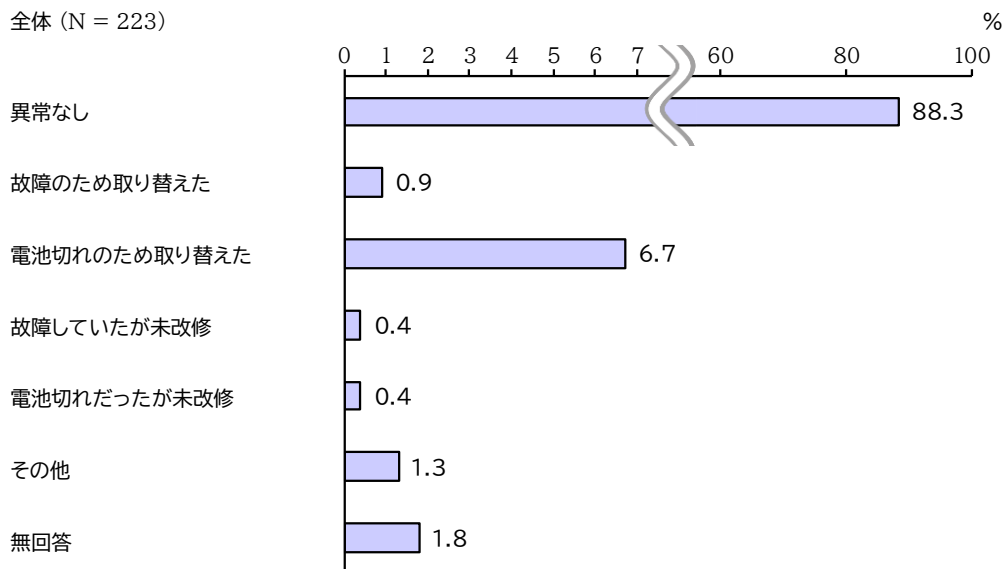


●住宅用火災警報器の作動確認を半年以内に「実施していない」方が7割半ば

「実施した」の割合が23.6%、「実施していない」の割合が76.2%となっています。

問 21-1 で「1. 実施した」と答えた方にお聞きします。

問 21-2 作動確認を実施した結果について選んでください。(○は1つだけ)

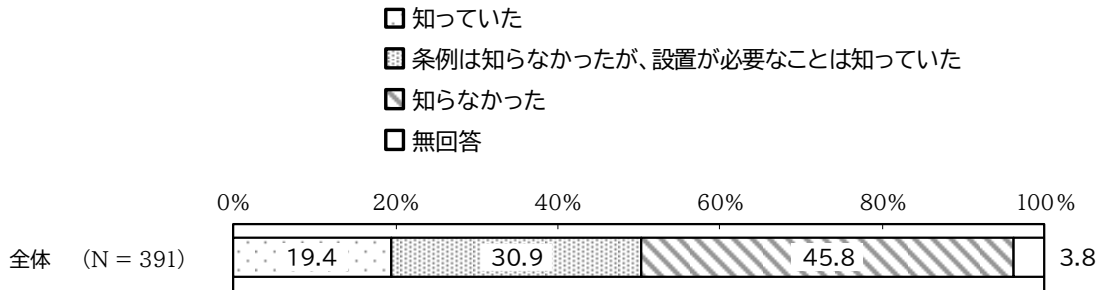


●住宅用火災警報器の作動確認を実施した結果、「異常なし」の方が9割近く

作動確認をした方については、88.3%の方が「異常なし」と回答しています。

問 21 で「2. 設置していない」と答えた方にお聞きします。

問 21-3 稲沢市では、火災予防条例で住宅用火災警報器の設置が義務付けられています。住宅用火災警報器を設置する義務があることは知っていましたか。
(○は1つだけ)

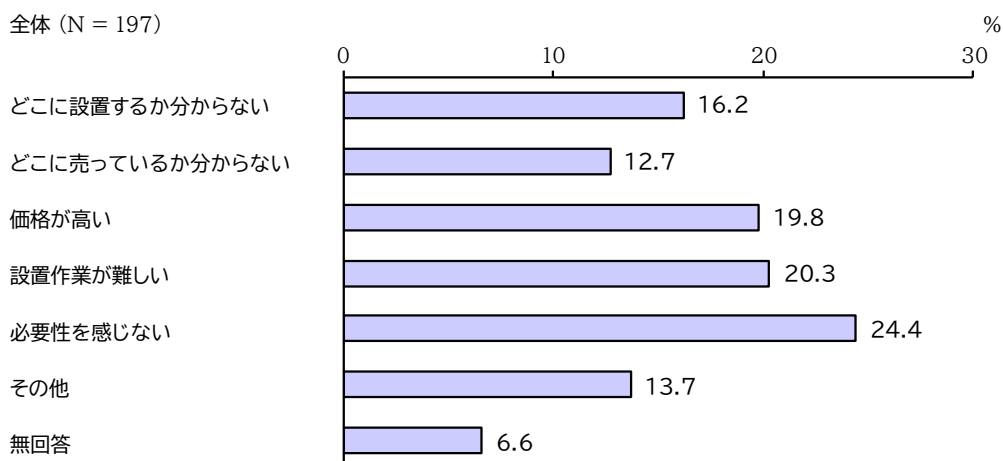


●住宅用火災警報器の設置義務を「知らなかった」方が4割半ば

「知らなかった」の割合が45.8%と最も高く、次いで「条例は知らなかったが、設置が必要なことは知っていた」の割合が30.9%、「知っていた」の割合が19.4%となっています。

問 21-3 で「1. 知っていた」「2. 条例は知らなかったが、設置が必要なことは知っていた」と答えた方にお聞きします。

問 21-4 設置していない理由は何ですか。(あてはまるもの全てに○)



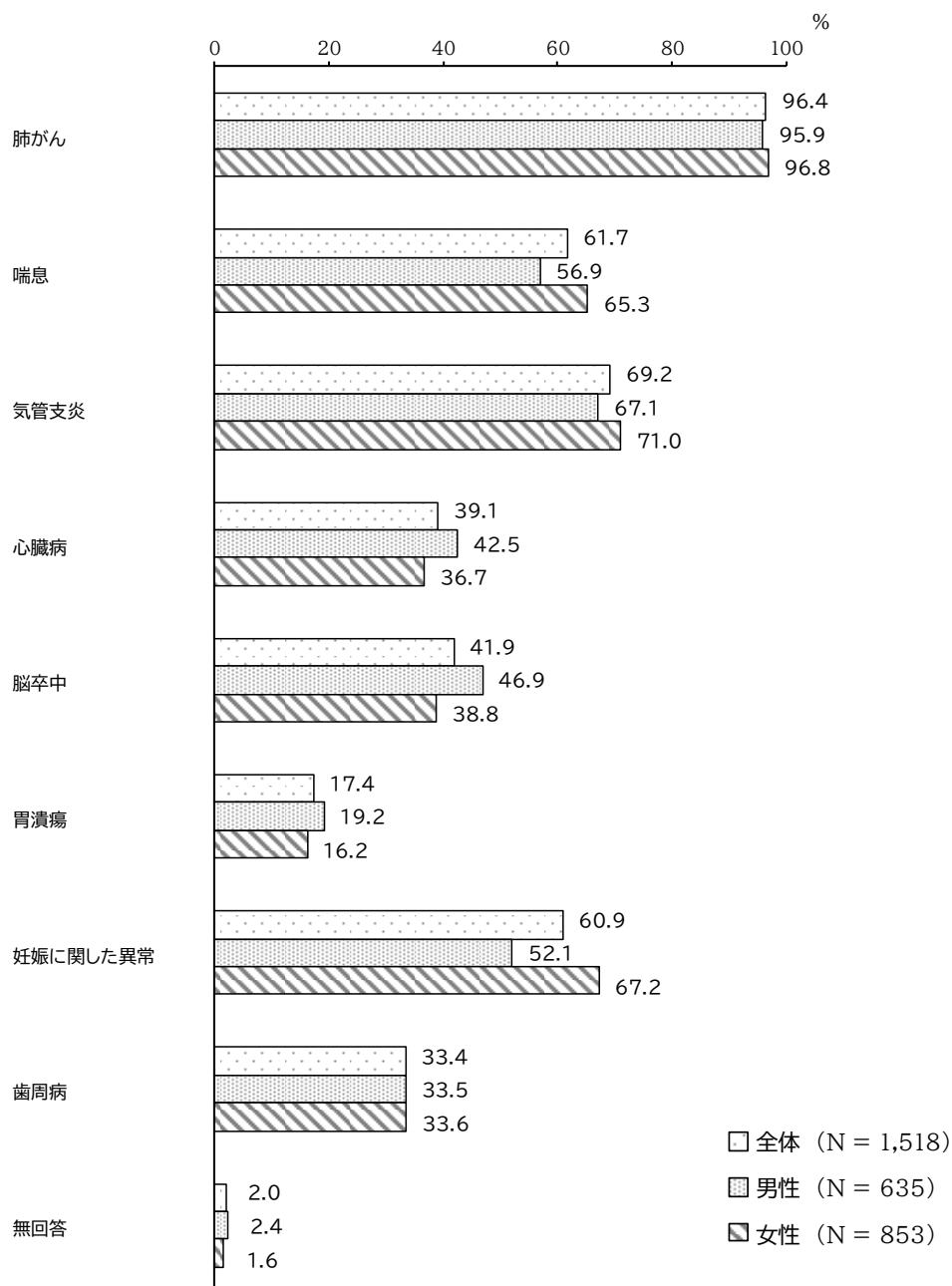
●住宅用火災警報器を設置していない理由は「必要性を感じない」が2割半ば

「必要性を感じない」の割合が24.4%と最も高く、次いで「設置作業が難しい」の割合が20.3%、「価格が高い」の割合が19.8%となっています。

全ての住宅に住宅用火災警報器の設置が義務化されてから10年以上が経過するため、「設置率の低い地域をターゲットにした広報」「定期的な点検の実施」「設置から10年以上経過した住宅用火災警報器の更新」を推進していきます。

12 いきいきいなざわ・健康 21(第2次)計画 (H26～R6) における現状

問 22 次の病気のうち、たばこが影響すると知っているものはありますか
(あてはまるもの全てに○)



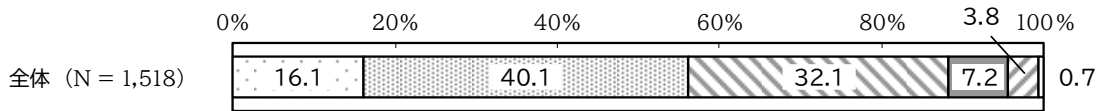
●たばこが影響すると知っている病気で「肺がん」と答えた方が9割半ば

「肺がん」と回答した方の割合が96.4%と最も高く、次いで「気管支炎」が69.2%、「喘息」が61.7%となっています。

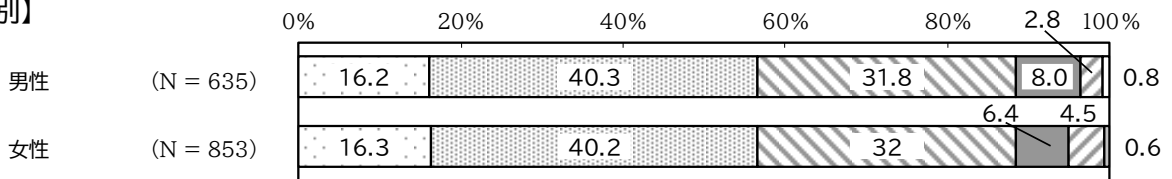
また、性別でみると、女性では「妊娠に関する異常」と回答した方の割合が男性に比べ高くなっています。

問 23 あなたは心身ともに健康であると思いますか（〇は1つだけ）

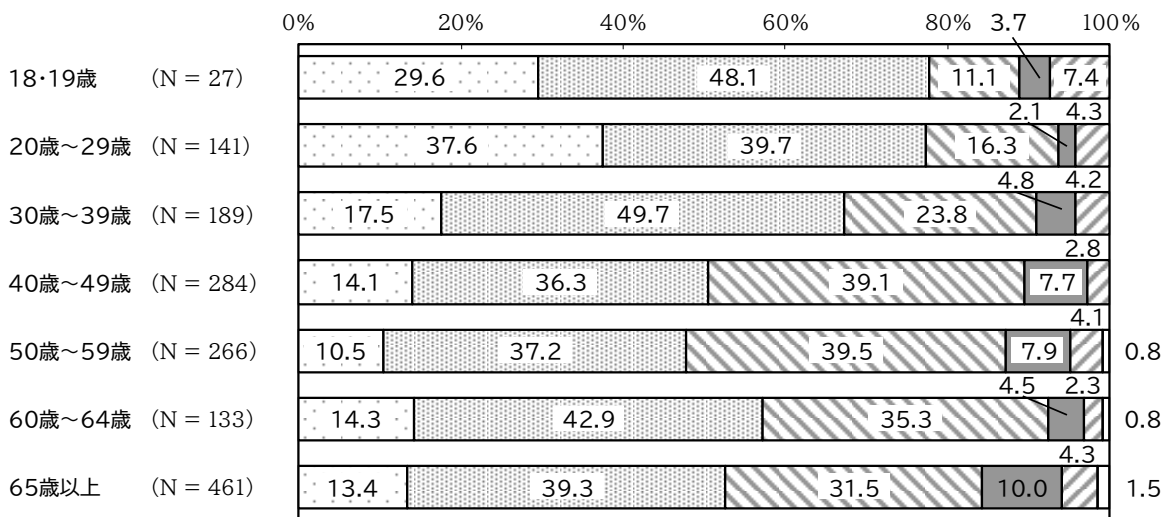
□ そう思う ■ やや思う ▨ あまり思わない
 ■ 全く思わない □ 分からない □ 無回答



【性別】



【年齢別】



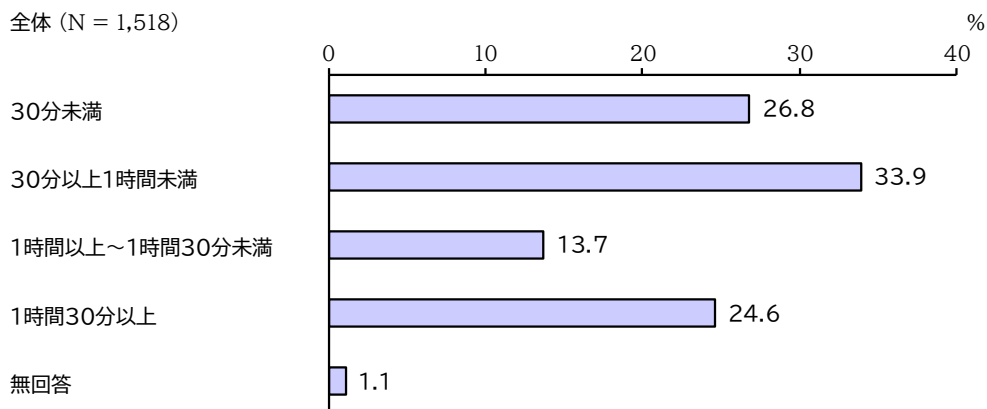
●心身ともに健康であると“思う”方が5割半ば

「そう思う」と「やや思う」を合わせた“思う”の割合が56.2%、「あまり思わない」と「全く思わない」を合わせた“思わない”の割合が39.3%となっています。

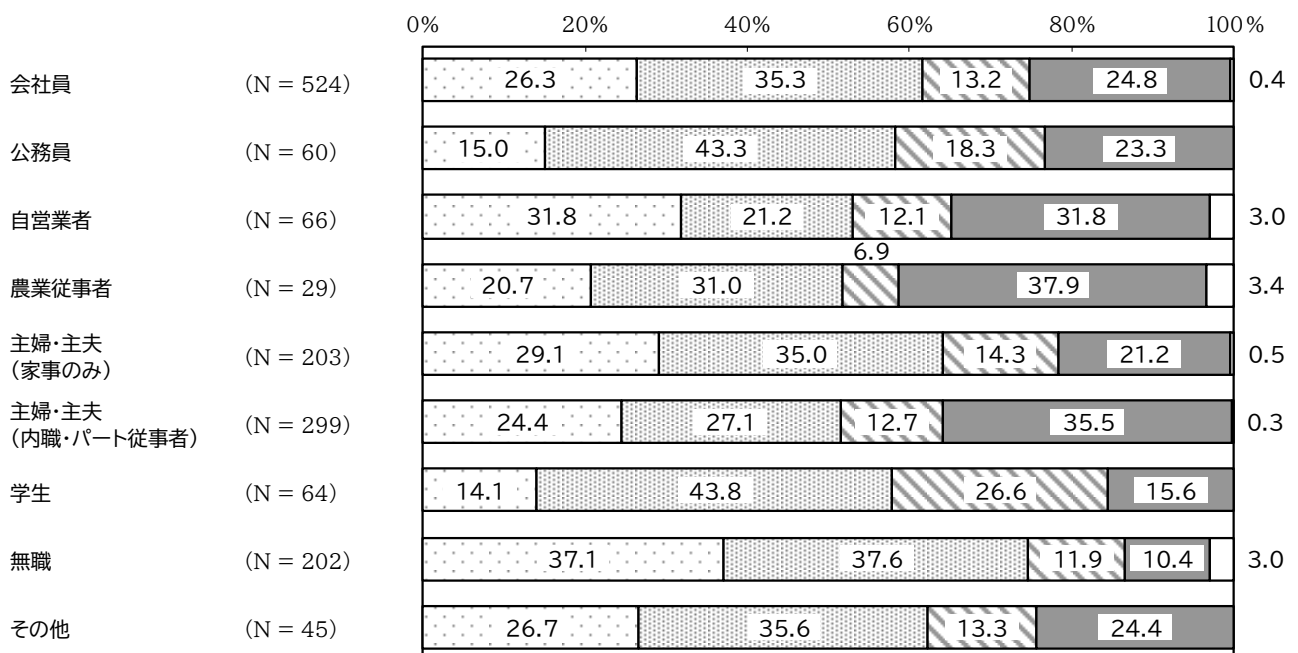
性別でみると、大きな差異はみられません。

年齢別でみると、他に比べ、30～39歳以下の年代では“思う”の割合が、40歳～49歳以上の年代で“思わない”の割合が高くなっています。

問 24 日常生活において（仕事や家事などを含む）、1日にどの程度歩いていますか。
（○は1つだけ）



【職業別】

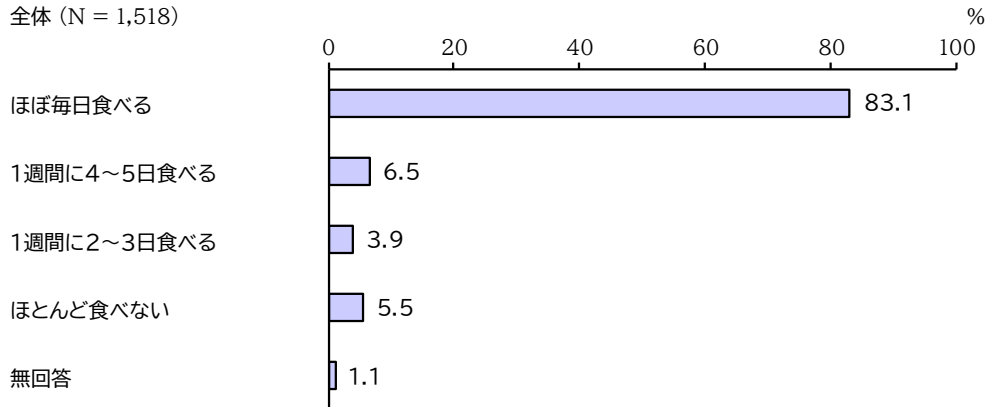


●日常生活において「30分以上1時間未満」歩く方が3割超え

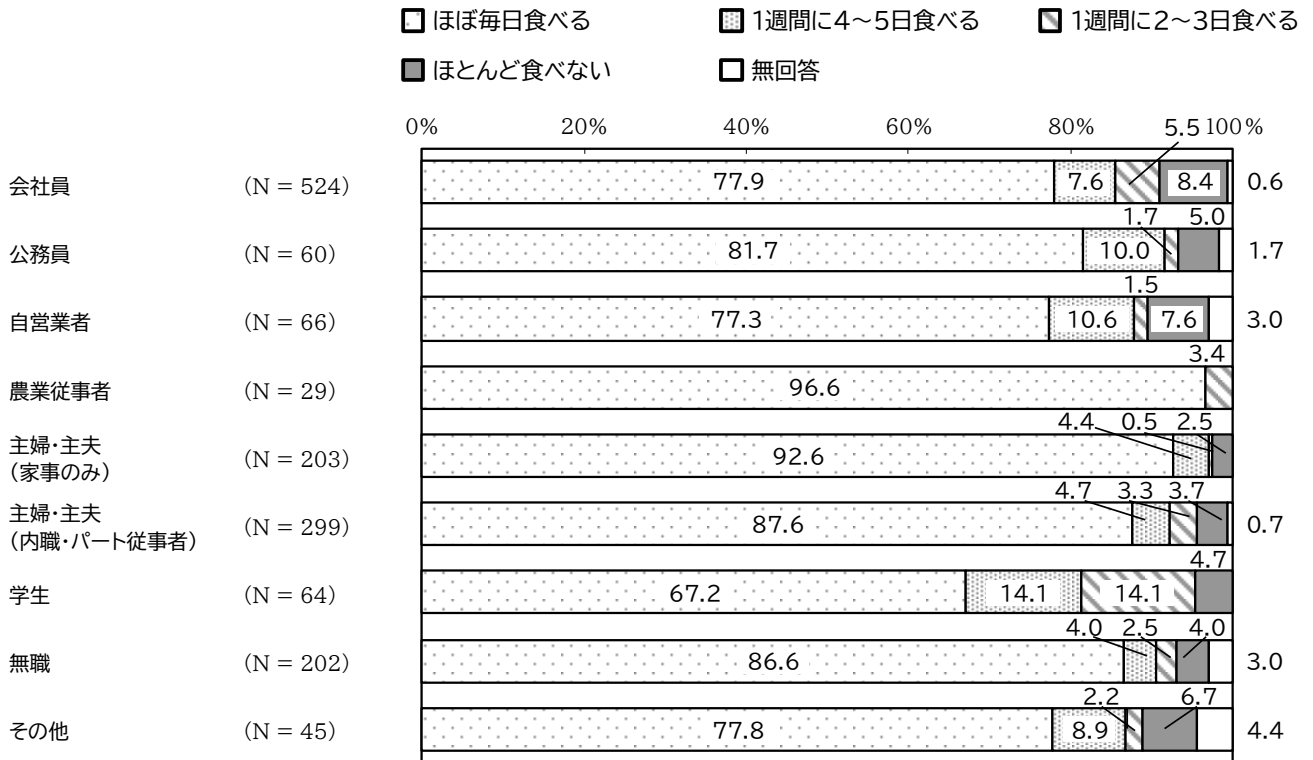
「30分以上1時間未満」の割合が33.9%と最も高く、次いで「30分未満」の割合が26.8%、「1時間30分以上」の割合が24.6%となっています。

職業別でみると、他に比べ、自営業者、無職では「30分未満」の割合が、公務員、学生では「30分以上1時間未満」の割合が高くなっています。

問 25 1日3回の食事をどの程度摂れていますか（○は1つだけ）



【職業別】



● 1日3回の食事を「ほぼ毎日食べる」方が8割超え

「ほぼ毎日食べる」の割合が83.1%と最も高くなっています。

職業別でみると、「ほぼ毎日食べる」の割合が、農業従事者、主婦・主夫（家事のみ）で9割以上と高くなっており、一方、学生では7割未満と低くなっています。

いきいきいなざわ・健康21（第二次）計画中の評価指標として活用し、達成状況を確認できましたので、2024年度の最終評価までに事業を推進しながら、目標へ近づけていきます。

Ⅲ 第 25 回市政世論調査 調査結果活用事例

●広報いなざわに求める工夫について【秘書広報課】

設問	<p>1. 市政の情報を得るために、どのような媒体を利用していますか。また、「広報いなざわ」をどの程度読んでいますか。</p> <p>2. 今後、「広報いなざわ」にどのような工夫や改善が必要だと思いますか。</p>
調査結果	<p>「広報いなざわ」が 84.7%と最も高く、次いで「市ホームページ」が 30.2%、18・19 歳では「SNS (Facebook, Twitter, YouTube など)」が約 4 割と、他の年齢よりも SNS 利用率が高い結果となりました。また、広報は「興味のある部分だけ読む」が 50.2%と最も高くなりました。</p> <p>全ての年代で、「情報を必要最小限にまとめて分かりやすく説明する」が 49.1%と最も高くなりました。</p>
活用した事例の進捗状況	<p>情報を得る媒体として「広報いなざわ」を利用する方が各世代で高い結果となったことを踏まえ、情報を精査し分かりやすく掲載するほか、写真やイラストなどを有効に活用することで、見やすく読みやすい広報を目指し、令和 4 年 4 月号からデザインを大幅に変更しました。</p> <p>ホームページや SNS についても、市公式 LINE を新たに開設するなど全ての世代の人に分かりやすく情報を発信できるよう、引き続き取り組んでいきます。</p>

●稲沢おでかけタクシー実証実験事業の認知度について【地域協働課】

設問	<p>平成 31 年 4 月 1 日から、高齢者や障害のある方、妊娠中の方などの外出を支援する事業として「稲沢おでかけタクシー実証実験事業」を実施しています。この事業について、どの程度知っていますか。</p>
調査結果	<p>「知らない」が 65.1%と最も高く、次いで「聞いたことはあるが、内容は知らない」が 24.6%、「内容を含め、知っている」が 9.1%となりました。</p>
活用した事例の進捗状況	<p>認知度が低調であることが判明したため、本制度の本格運行の開始となる令和 3 年 4 月 1 日に先立ち、「広報いなざわ令和 3 年 4 月号」に制度内容のお知らせを掲載しました。</p> <p>また、事業の対象となる方へ直接情報が伝わるよう、稲沢警察署に高齢者の方の免許証返納の際に同制度の案内を行っていただくよう協力を依頼しました。</p>

●稲沢市地域福祉計画・地域福祉活動計画の推進に向けて【福祉課】

設問	<ol style="list-style-type: none"> 地域の活動やボランティア活動に参加したことがありますか。 台風などの災害時に避難する際、家族、近所の人など、手助けをお願いできる人がいますか。 稲沢市の福祉事業・活動全般について、どの程度満足していますか。
調査結果	<ol style="list-style-type: none"> 「参加したことがない」が53.8%と最も高く、次いで「以前、参加したことがある」が31.4%、「日ごろから参加している」が13.6%となりました。 「いる」が59.9%、「いない」が38.7%となりました。 「分からない」が55.5%と最も高く、次いで「どちらかといえば満足」が22.5%、「どちらかといえば不満」が13.7%となりました。
活用した事例の進捗状況	<p>調査時での第4次稲沢市地域福祉計画・地域福祉活動計画における目標指標の現状を把握することができました。令和6年度の最終評価までに、事業を推進しながら目標に近づけていきます。</p>

●スマートフォン向けごみ分別アプリの導入について【資源対策課】

設問	<ol style="list-style-type: none"> ごみの収集日や分別方法を知りたいとき、どのような媒体を利用しますか。 ごみの分別方法を検索したり、ごみの収集日をお知らせする機能があったスマートフォン用アプリ（ごみ分別アプリ）を導入した場合、利用したいと思いますか。
調査結果	<ol style="list-style-type: none"> 「ごみ・分別カレンダー」が84.1%と最も高く、次いで「資源とごみの分別辞典」が33.5%、「市ホームページ」が19.8%となっています。 「分からない」が42.7%と最も高く、次いで「利用したい」が34.5%、「利用したくない」が21.9%となりました。「利用したくない」「分からない」の理由は、「スマートフォンをあまり使用しない（持っていない）」が33.2%と最も高く、次いで「既存の媒体を利用する」が32.0%、「情報を調べる頻度が少ない」が26.4%となりました。
活用した事例の進捗状況	<p>稲沢市では、人工知能を活用した「自動会話プログラム」である「AIチャットボット」を導入しており、現在はこの「AIチャットボット」の機能である「ごみの分別ガイド」を活用していただくようご案内しています。</p> <p>しかしながら、あくまで「AIチャットボット」の一機能である「ごみの分別ガイド」とごみ分別アプリには機能的な差異があり、情報発信は複数の媒体で行う方が周知効果も見込まれることから、情報発信の拡充が必要なタイミングに合わせてごみ分別アプリも導入していく考えです。</p> <p>今後、市ではプラスチック資源の再利用促進のため、プラスチック製品の分別回収を進めていきたいと考えています。ただし、その場合収集方法などの大幅な変更を周知する必要があるため、そのタイミングに合わせて、ごみ分別アプリを導入することで、さらなる利便性の向上を図ってまいります。</p>

●住宅用火災警報器の普及率向上および適切な維持管理の徹底【消防本部予防課】

設問	<p>1. お住まいの住宅に住宅用火災警報器は設置されていますか。設置していない場合、設置していない理由は何ですか。また、設置する義務があることは知っていましたか。</p> <p>2. 設置している場合、住宅用火災警報器の作動確認を半年以内を実施しましたか。また、実施した結果について選んでください。</p>
調査結果	<p>1. 「設置している」は 68.4%、「設置していない」は 26.2%となりました。 「設置していない」理由は、「必要性を感じない」が 33.9%で最も高く、次いで「価格が高い」が 25.0%、「どこに設置するかわからない」が 20.3%となりました。設置する義務があることは「知らなかった」が 41.8%となりました。</p> <p>2. 作動確認を「実施した」が 26.4%で「実施していない」が 71.5%となりました。その中で「故障」「電池切れ」のあった割合は 3.5%という結果となりました。</p>
活用した事例の進捗状況	<p>調査結果を踏まえ、設置率の低い高齢者世帯への啓発強化のため、令和3年度から地区老人会に出向し、住宅用火災警報器の設置及び設置後の維持管理の必要性等を説明する活動を実施しています。</p> <p>また、設置率が低い地域に重点を置き、対象地域内の商業施設にて全国火災予防運動中の啓発活動を予定しています。</p>

●安全でおいしい水の供給に向けて【水道業務課】

設問	<p>飲料水として、もっとも利用する水は何ですか。また、「水道水」以外を利用している理由は何ですか。</p>
調査結果	<p>「水道水」が 39.8%と最も高く、次いで「浄水器で浄水した水道水」が 19.1%、「市販のペットボトル入りの水」が 17.2%となっています。</p> <p>「水道水に問題はないが他の水の方が良いと思うから」が 28.9%と最も高く、次いで「水道水は安全性（水質）に不安を感じるから」が 22.1%、「水道水は塩素（カルキ）臭がするから」が 15.5%となっています。</p>
活用した事例の進捗状況	<p>第2期水道ビジョンで示されている目標の実現方策である「水質管理体制の充実と対策の実施」及び「情報発信」における達成度を検証することに利用しています。</p> <p>また、消費生活展などでの市販のペットボトルと水道水との飲み比べなどのイベントやペットボトル「いなぎの水」の配布などを通じて、水道水のおいしさと安全性を PR することで、飲料水として水道水を使っただけのよう啓発しています。</p>

●いきいきいなざわ健康 21（第2次）計画推進に向けて【健康推進課】

設問	<p>1. 次の病気のうち、たばこが影響すると知っているものはありますか。</p> <p>2. あなたは心身ともに健康であると思いますか。</p> <p>3. 日常生活（仕事や家事などを含む）において、1日にどの程度歩いていますか。</p> <p>4. 1日に3回の食事をどの程度摂れていますか。</p>
調査結果	<p>1. 「肺がん」と認識している人が96.3%と最も高く、次いで「気管支炎」が69.8%、「ぜんそく」が68.4%となりました。</p> <p>2. 「やや思う」が41.8%と最も高く、次いで「あまり思わない」が26.3%、「そう思う」が19.5%となりました。</p> <p>3. 「30分以上～1時間未満」が35.4%と最も高く、次いで「30分未満」が27.6%、「1時間30分以上」が21.5%となりました。</p> <p>4. 「ほぼ毎日食べる」が83.1%と最も高くなりました。</p>
活用した事例の進捗状況	<p>いきいきいなざわ・健康 21（第2次）計画中の評価指標として活用し、達成状況を確認しました。令和5年度の最終評価までに、事業の推進をしながら目標に近づけていきます。</p>

●市民に利用される市民病院に向けて【市民病院管理課】

設問	<p>あなたや家族の方が病気などになったとき、稲沢市民病院を利用しますか。また、利用しない理由は何ですか。</p>
調査結果	<p>「利用する（既に利用している）」が41.4%と最も高く、次いで「わからない」が34.1%となりました。</p> <p>「利用しない」、「分からない」の理由として、「自宅から遠く、不便」が43.2%と最も高く、次いで「待ち時間が長い」が19.5%となりました。</p>
活用した事例の進捗状況	<p>「待ち時間が長い」ことで市民病院を利用しない方が20%弱いることから、デジタルサイネージへの番号表示や予定時間より遅れている際には声がけをするなど少しでも待ち時間を短縮できるよう院内全体で取り組んでいます。</p> <p>また、「自宅から遠く、不便」との回答についても、「遠くても市民病院にかかりたい」と思ってもらえるような信頼される病院を目指し、日々の業務に当たっています。</p>

第 26 回市政世論調査
市民のこえ
調査結果のまとめ

発行年月 令和 4 年 11 月

発行 稲沢市
編集 稲沢市市長公室秘書広報課
稲沢市稲府町 1 (〒492-8269)
TEL 0587-32-1126 (ダイヤルイン)
FAX 0587-23-1489